

管理クイックスタート

# **Novell® ZENworks® 10 Configuration Management SP2**

**10.2**

2009 年 5 月 27 日

[www.novell.com](http://www.novell.com)



## 保証と著作権

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、この文書の内容または使用について、いかなる保証、表明または約束も行っておりません。また文書の商品性、および特定の目的への適合性については、明示と黙示を問わず一切保証しないものとします。米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、本書の内容を改訂または変更する権利を常に留保します。米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、このような改訂または変更を個人または事業体に通知する義務を負いません。

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、すべてのノベル製ソフトウェアについて、いかなる保証、表明または約束も行っておりません。またノベル製ソフトウェアの商品性、および特定の目的への適合性については、明示と黙示を問わず一切保証しないものとします。米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、ノベル製ソフトウェアの内容を変更する権利を常に留保します。

本契約の締結に基づいて提供されるすべての製品または技術情報には、米国の輸出管理規定およびその他の国の貿易関連法規が適用されます。お客様は、すべての輸出規制を遵守して、製品の輸出、再輸出、または輸入に必要なすべての許可または等級を取得するものとします。お客様は、現在の米国の輸出除外リストに掲載されている企業、および米国の輸出管理規定で指定された輸出禁止国またはテロリスト国に本製品を輸出または再輸出しないものとします。お客様は、取引対象製品を、禁止されている核兵器、ミサイル、または生物化学兵器を最終目的として使用しないものとします。ノベル製ソフトウェアの輸出については、「[Novell International Trade Services \(http://www.novell.com/info/exports/\)](http://www.novell.com/info/exports/)」の Web ページをご参照ください。弊社は、お客様が必要な輸出承認を取得しなかったことに対し如何なる責任も負わないものとします。

Copyright © 2007-2009 Novell, Inc. All rights reserved. 本ドキュメントの一部または全体を無断で複写・転載することは、その形態を問わず禁じます。

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、本文書に記載されている製品に実装されている技術に関する知的所有権を保有します。これらの知的所有権は、「[Novell Legal Patents \(http://www.novell.com/company/legal/patents/\)](http://www.novell.com/company/legal/patents/)」の Web ページに記載されている 1 つ以上の米国特許、および米国ならびにその他の国における 1 つ以上の特許または出願中の特許を含む場合があります。

Novell, Inc.  
404 Wyman Street, Suite 500  
Waltham, MA 02451  
U.S.A.  
[www.novell.com](http://www.novell.com)

オンラインマニュアル: 本製品とその他の Novell 製品の最新のオンラインマニュアルにアクセスするには、[Novell のマニュアルの Web ページ \(http://www.novell.com/documentation\)](http://www.novell.com/documentation) を参照してください。

## **Novell の商標**

Novell の商標一覧については、「[商標とサービスの一覧 \(http://www.novell.com/company/legal/trademarks/tmlist.html\)](http://www.novell.com/company/legal/trademarks/tmlist.html)」を参照してください。

## **サードパーティ資料**

サードパーティの商標は、それぞれの所有者に帰属します。



# 目次

このガイドについて	7
<b>1 管理クイックリスト</b>	<b>9</b>
1.1 ゾーン設定	9
1.2 ZENworks Adaptive Agent の展開	10
1.3 デバイス管理	11
1.4 システムメッセージおよびレポート	12
<b>2 管理ツールクイックビュー</b>	<b>15</b>
2.1 ZENworks コントロールセンター	15
2.1.1 ZENworks コントロールセンターへのアクセス	15
2.1.2 ZENworks コントロールセンターの操作	16
2.2 zman コマンドラインユーティリティ	17
2.2.1 ディレクトリ	17
2.2.2 構文	17
2.2.3 コマンドのヘルプ	18
2.3 zac コマンドラインユーティリティ	18
2.3.1 ディレクトリ	18
2.3.2 構文	18
2.3.3 コマンドのヘルプ	19
<b>3 ゾーン設定</b>	<b>21</b>
3.1 デバイスの構成：フォルダとグループ	21
3.1.1 フォルダ	21
3.1.2 グループ	23
3.1.3 フォルダおよびグループの割り当ての継承	26
3.2 デバイスを登録する	26
3.2.1 登録キー	27
3.2.2 登録ルール	28
3.2.3 デバイス命名テンプレート	30
3.2.4 その他の情報の参照場所	31
3.3 ユーザソースへの接続	31
3.4 ZENworks 管理者アカウントの作成	32
3.5 環境設定の変更	35
3.5.1 ゾーンでの環境設定の変更	36
3.5.2 フォルダの環境設定の変更	37
3.5.3 デバイスでの環境設定の変更	38
<b>4 ZENworks Adaptive Agent の展開</b>	<b>41</b>
4.1 ネットワークデバイスの検出	41
4.2 デバイスのインポート	42
4.3 ZENworks Adaptive Agent のインストール	43
4.3.1 手動インストール	44
4.3.2 ZENworks コントロールセンター展開タスク	45
4.4 ZENworks Adaptive Agent の使用	50
4.4.1 管理ゾーンへのログイン	50

4.4.2	Adaptive Agent ビューのナビゲート	50
4.4.3	Adaptive Agent 機能の有効化 / 無効化	54
<b>5</b>	<b>デバイス管理</b>	<b>59</b>
5.1	ソフトウェアの配布	59
5.2	ポリシーの適用	61
5.3	ソフトウェアインベントリおよびハードウェアインベントリの収集	63
5.3.1	デバイススキャンの開始	63
5.3.2	デバイスインベントリの表示	64
5.3.3	インベントリレポートの生成	64
5.3.4	詳細の参照場所	65
5.4	デバイスのイメージング	65
5.4.1	プレブートサービスの設定	66
5.4.2	イメージの取得	68
5.4.3	イメージの適用	69
5.4.4	詳細の参照場所	73
5.5	デバイスのリモート管理	73
5.5.1	リモート管理ポリシーの作成	74
5.5.2	リモート管理設定	75
5.5.3	リモートコントロール、リモートビュー、およびリモート実行操作の実行	76
5.5.4	リモート診断操作の実行	78
5.5.5	ファイル転送操作の実行	80
5.5.6	詳細の参照場所	81
5.6	ソフトウェアのパッチ適用	81
5.6.1	サブスクリプションサービスの開始	82
5.6.2	パッチの展開	83
5.6.3	サブスクリプションライセンスの購入とアクティベート	83
5.6.4	新しいパッチ管理ライセンスの提供	83
5.6.5	パッチ管理ライセンスの更新	84
5.6.6	詳細の参照場所	84
5.7	ライセンスコンプライアンスの監視	84
5.7.1	購入記録のインポート	84
5.7.2	ライセンス製品の作成	85
5.7.3	コンプライアンスデータの表示	86
5.8	デバイスのリタイアまたはリタイア解除	87
<b>6</b>	<b>システムメッセージおよびレポート</b>	<b>89</b>
6.1	システムメッセージの参照	89
6.1.1	メッセージのサマリの参照	89
6.1.2	メッセージの承認	90
6.1.3	詳細の参照場所	92
6.2	ウォッチリストの作成	92
6.3	レポートの生成	93
<b>A</b>	<b>マニュアルの更新</b>	<b>97</b>
A.1	2009 年 5 月 27 日 :SP2 (10.2)	97

# このガイドについて

この『ZENworks 10 Configuration Management 管理クイックスタート』は、ZENworks® 10 Configuration Management SP2 (10.2) システムを管理するための基本事項を短期間で習得するために役立ちます。ZENworks システムがインストールされている必要があります。まだインストールしていない場合は、『ZENworks 10 Configuration Management インストールガイド』を参照してください。

このガイドの情報は、次のように構成されます。

- ◆ (9 ページ) **管理クイックリスト** :ZENworks システムの設定と監視、管理対象デバイスへの ZENworks Adaptive Agent の展開、およびデバイスに対する管理タスクの実行に必要な項目のチェックリストが提供されています。
- ◆ (15 ページ) **管理ツールクイックビュー** : 主要な 2 つの ZENworks 管理ツールである ZENwork コントロールセンターと zman コマンドラインユーティリティを紹介しています。
- ◆ (21 ページ) **ゾーン設定** : 実行する管理タスクを最適にサポートするために、ZENworks システムの設定手順について説明しています。
- ◆ (41 ページ) **ZENworks Adaptive Agent の展開** : ZENworks Adaptive Agent をデバイスにインストールする手順について説明しています。ZENworks を使用して管理を行う場合は、すべてのデバイスに Adaptive Agent が必要です。
- ◆ (59 ページ) **デバイス管理** : デバイスを管理するのに必要なさまざまなタスクを実行するための手順について説明しています。
- ◆ (89 ページ) **システムメッセージおよびレポート** : ZENworks システムの動作に関する情報を入手する方法を紹介しています。

## 対象読者

本ガイドは、ZENworks システムの設定、ZENworks システムの監視、あるいはデバイスまたはユーザの管理に関係する ZENworks のタスクを実行するすべてのユーザ向けに作成されています。

## フィードバック

本マニュアルおよびこの製品に含まれているその他のマニュアルについて、皆様のご意見やご要望をお寄せください。オンラインマニュアルの各ページの下部にあるユーザコメント機能を使用するか、または [Novell Documentation Feedback サイト \(http://www.novell.com/documentation/feedback.html\)](http://www.novell.com/documentation/feedback.html) にアクセスして、ご意見をお寄せください。

## 追加のマニュアル

ZENworks 10 Configuration Management には、製品について学習したり、製品を実装したりするために使用できるその他のマニュアル (PDF 形式および HTML 形式の両方) も用意されています。追加のマニュアルについては、『ZENworks 10 Configuration Management SP2 (<http://www.novell.com/documentation/zcm10/>)』を参照してください。

## マニュアルの表記規則

Novell のマニュアルでは、「より大きい」記号 (>) を使用して手順内の操作と相互参照パス内の項目の順序を示します。

商標記号 (®、™ など) は、Novell の商標を示します。アスタリスク (\*) は、サードパーティの商標を示します。

パス名の表記に円記号 (\) を使用するプラットフォームとスラッシュ (/) を使用するプラットフォームがありますが、このマニュアルでは円記号を使用します。Linux\* など、スラッシュを使用するプラットフォームの場合は、必要に応じて円記号をスラッシュに置き換えてください。



# 管理クイックリスト

# 1



ZENworks® サーバ (または複数のサーバ) をインストールしたら、Novell® ZENworks 10 Configuration Management SP2 の時間の節約に役立つすべての機能を使用できるようになります。次のセクションは、ご使用の環境内のデバイスを効果的に管理する手助けとなる設定、展開、管理、および状態監視の概念およびタスクを簡単に紹介するように構成されています。




- ◆ 9 ページのセクション 1.1 「ゾーン設定」
- ◆ 10 ページのセクション 1.2 「ZENworks Adaptive Agent の展開」
- ◆ 11 ページのセクション 1.3 「デバイス管理」
- ◆ 12 ページのセクション 1.4 「システムメッセージおよびレポート」

## 1.1 ゾーン設定

ソフトウェアの配布、デバイスへのポリシーの適用、などを開始する前に、管理ゾーンが ZENworks 管理機能をフル活用できるように設定されているかを確認するために、いくつかの設定タスクを完了しておく必要があります。

表 1-1 ゾーン設定タスク


タスク	詳細
 デバイスの構成用フォルダおよびグループの作成	<p>ZENworks 環境設定の適用および同様のデバイス上でのタスクの実行に関するオーバーヘッドを簡単にするためにデバイスをフォルダおよびグループに構成します。個々のデバイスで割り当てを行ったり、タスクを実行するのではなく、フォルダまたはグループにある各デバイスで割り当てやタスクを継承しながら、フォルダやグループを管理できます。</p> <p>方法については、21 ページのセクション 3.1 「デバイスの構成：フォルダとグループ」を参照してください。</p>
 登録キーまたはルール作成	<p>ZENworks Adaptive Agent は管理するそれぞれのデバイスにインストールする必要があります。ZENworks Adaptive Agent をデバイスに展開するとき、デバイスは管理ゾーンに登録されます。</p> <p>登録キーまたは登録ルールを使用して、自動的にデバイスを適切なフォルダおよびグループに割り当て、正しい環境設定とソフトウェアおよびポリシー割り当てを迅速確実に受け取ることができます。</p> <p>方法については、26 ページのセクション 3.2 「デバイスを登録する」を参照してください。</p>




タスク	詳細
 ユーザソースの追加	<p>ソフトウェアおよびポリシーをユーザやデバイスに割り当てる ことができます。デバイス割り当て済みソフトウェアおよびポ リシーとは異なり、ユーザ割り当てソフトウェアおよびポリ シーは、ユーザが管理ゾーンにログインしたときにのみデバイ スで利用できます。</p> <p>ユーザを手動で管理ゾーンに追加するわけではありません。代 わりに、ZENworks 内で信頼されたユーザソースとして使用す るLDAP ディレクトリに接続します。その後で、ユーザソース 内に定義されているユーザにソフトウェアおよびポリシー割り 当てを行うことができます。</p> <p>方法については、<a href="#">31 ページのセクション 3.3「ユーザソースへ の接続」</a>を参照してください。</p>
 追加管理者アカウントの作成	<p>インストール中に、デフォルトの ZENworks 管理者アカウント (Administrator) が作成されます。デフォルトの Administrator ア カウントは管理ゾーン全体に権限を提供します。</p> <p>ゾーンへのアクセスが制限された追加の管理者アカウントを作 成できます。たとえば、ソフトウェアを特定のフォルダ内のデ バイスまたはユーザに割り当てる機能のみを提供するアカウン トを作成することができます。</p> <p>方法については、<a href="#">32 ページのセクション 3.4「ZENworks 管理 者アカウントの作成」</a>を参照してください。</p>
 ゾーン環境設定の変更	<p>ゾーン設定は最も一般的な設定を提供するために事前設定され ています。必要に応じて設定を変更できます。</p> <p>方法については、<a href="#">35 ページのセクション 3.5「環境設定の変更」</a> を参照してください。</p>

## 1.2 ZENworks Adaptive Agent の展開

ZENworks Adaptive Agent は、ZENworks サーバと通信して、デバイスで管理タスクを実行  
します。管理するすべてのデバイスに Adaptive Agent を展開する必要があります。  
Adaptive Agent を展開することにより、エージェントファイルをインストールし、デバイ  
スを管理ゾーンに登録します。

表 1-2 展開タスク


タスク	詳細
 デバイスの検出	<p>ZENworks コントロールセンターを利用してエージェントをデ バイスに展開するよう選択した場合は、まず初めに管理ゾー ンにデバイスを追加する必要があります。これはネットワーク ディスカバリを実行することによって行うことができます。</p> <p>方法については、<a href="#">41 ページのセクション 4.1「ネットワークデ バイスの検出」</a>を参照してください。</p>






タスク	詳細
 デバイスのインポート	<p>また、カンマ区切り値 (CSV) ファイルからデバイスを管理ゾーンにインポートすることもできます。各デバイスエントリは IP アドレスまたは DNS 名を含んでいる必要があります。</p> <p>方法については、<a href="#">42 ページのセクション 4.2「デバイスのインポート」</a>を参照してください。</p>
 ZENworks Adaptive Agent のインストール	<p>ZENworks Adaptive Agent をデバイスにインストールするにはさまざまな方法があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ ZENworks コントロールセンターを使用してエージェントを ZENworks サーバからデバイスに展開します。</li> <li>◆ デバイス側では、Web ブラウザを使用して ZENworks サーバからエージェントをダウンロードし、インストールします。</li> <li>◆ エージェントをイメージに含め、イメージをデバイスに適用します。</li> </ul> <p>方法については、<a href="#">43 ページのセクション 4.3「ZENworks Adaptive Agent のインストール」</a>を参照してください。</p>
 ZENworks Adaptive Agent へのログインと使用	<p>デバイスでユーザ割り当て済みバンドルおよびポリシーを受け取るには、管理ゾーンにログインする必要があります。さらに各種の Adaptive Agent の機能を有効化または無効化して、Adaptive Agent の機能を制御することができます。</p> <p>方法については、<a href="#">50 ページのセクション 4.4「ZENworks Adaptive Agent の使用」</a>を参照してください。</p>

## 1.3 デバイス管理

ZENworks は、デバイスを管理するために実行できるさまざまなタスクを提供します。次のタスクは必要に応じて任意の順序で実行できます。

表 1-3 デバイス管理




タスク	詳細
 ソフトウェアの配布	<p>ソフトウェアをバンドルを使用して配布します。バンドルは、ソフトウェアのインストール、起動、およびアンインストール (必要な場合) に必要なソフトウェアファイルおよび指示を含んでいます。バンドルを作成して、Windows* Installer アプリケーション (MSI および MSP の両方)、非 Windows Installer アプリケーション、Web リンク、およびシンクライアントアプリケーションを配布できます。</p> <p>方法については、<a href="#">59 ページのセクション 5.1「ソフトウェアの配布」</a>を参照してください。</p>

タスク	詳細
 ポリシーの適用	<p>デバイス動作をポリシーのアプリケーションを通じて制御します。ZENworks を使用すると、Windows Group ポリシー、ローミングプロファイルポリシー、ブラウザブックマークポリシー、プリンタポリシーなどを作成して適用できます。</p> <p>方法については、<a href="#">61 ページのセクション 5.2「ポリシーの適用」</a>を参照してください。</p>
 デバイスのスキャンによるソフトウェアおよびハードウェアインベントリの収集	<p>デバイスをスキャンしてデバイスのソフトウェアおよびハードウェアインベントリを収集します。インベントリ情報はソフトウェア配布およびハードウェアアップグレードを決定する手助けとなります。</p> <p>方法については、<a href="#">63 ページのセクション 5.3「ソフトウェアインベントリおよびハードウェアインベントリの収集」</a>を参照してください。</p>
 デバイスのイメージを取得およびイメージのデバイスへの適用	<p>デバイスのイメージの作成、イメージのデバイスへの適用、およびイメージングスクリプトのデバイス上での実行を行うことができます。ZENworks Configuration Management は Preboot Services 機能を使用して、これらのイメージングタスクをスタートアップ時にデバイス上で実行します。</p> <p>方法については、<a href="#">65 ページのセクション 5.4「デバイスのイメージング」</a>を参照してください。</p>
 管理デバイスのリモート管理	<p>デバイスにリモートでアクセスしてユーザを支援したり、操作を実行したりします。デバイスを制御または参照することができます。また、診断を実行して、ファイルを実行および転送したり、デバイスの問題をトラブルシューティングしたりすることもできます。</p> <p>方法については、<a href="#">73 ページのセクション 5.5「デバイスのリモート管理」</a>を参照してください。</p>
 ソフトウェア使用の監視とソフトウェアライセンスの調整	<p>ZENworks Asset Management は個別にライセンス化される製品であり、評価用として ZENworks 10 Configuration Management に含まれています。Asset Management では、ソフトウェアの使用状況を監視し、ソフトウェアのライセンス準拠を確認できます。</p> <p>方法については、<a href="#">84 ページのセクション 5.7「ライセンスコンプライアンスの監視」</a>を参照してください。</p>

## 1.4 システムメッセージおよびレポート

ゾーン内で管理タスクを実行すると、情報が記録されてゾーンの状態とそこで行われているアクティビティを参照できるようになります。

表 1-4 システムメッセージおよびレポートタスク

タスク	詳細
 システムメッセージを参照します。	<p>ZENworks システムは、情報、警告およびエラーメッセージを生成して、ソフトウェアの配布やポリシーの適用などのアクティビティを監視する手助けとなります。</p> <p>方法については、<a href="#">89 ページのセクション 6.1「システムメッセージの参照」</a>を参照してください。</p>
 ウォッチリストの作成	<p>アクティビティを詳しく監視したいデバイス、バンドル、およびポリシーがある場合、それらをウォッチリストに追加できます。</p> <p>方法については、<a href="#">92 ページのセクション 6.2「ウォッチリストの作成」</a>を参照してください。</p>
 レポートの生成	<p>デバイス、バンドル、ポリシーなどのレポートを生成します。</p> <p>方法については、<a href="#">93 ページのセクション 6.3「レポートの生成」</a>を参照してください。</p>



# 管理ツールクイックビュー

# 2

Novell® ZENworks® 10 Configuration Management には、ZENworks システムを管理するために Web ベースのコンソール (ZENworks コントロールセンター) とコマンドラインユーティリティ (zman) の両方が提供されています。次のセクションでは、管理ツールのアクセス方法および使用法について説明します。

- 15 ページのセクション 2.1 「ZENworks コントロールセンター」
- 17 ページのセクション 2.2 「zman コマンドラインユーティリティ」
- 18 ページのセクション 2.3 「zac コマンドラインユーティリティ」

## 2.1 ZENworks コントロールセンター

ZENworks コントロールセンターは、管理ゾーンのすべての ZENworks サーバにインストールされます。どの ZENworks サーバでも、すべての管理タスクを実行できます。

- 15 ページのセクション 2.1.1 「ZENworks コントロールセンターへのアクセス」
- 16 ページのセクション 2.1.2 「ZENworks コントロールセンターの操作」

### 2.1.1 ZENworks コントロールセンターへのアクセス

- 1 『ZENworks 10 Configuration Management インストールガイド』の「管理ブラウザの要件」に記載されている要件を満たす Web ブラウザを使用して、次の URL を入力します。

`https://ZENworks_Server_Address:port`

`ZENworks_Server_Address` は、ZENworks サーバの IP アドレスまたは DNS 名に置き換えてください。デフォルトポート (80 または 443) のいずれれも使用していない場合は、ポートを指定するだけです。ZENworks コントロールセンターには HTTPS 接続が必要です。HTTP 要求は、HTTPS にリダイレクトされます。

[ログイン] ダイアログボックスが表示されます。

Novell® ZENworks® ログイン

ヘルプ

管理ゾーン: DOC\_20070601B

ユーザ名:

パスワード:

使用言語: 日本語 ▼

ログイン

N

- 2 [ユーザ名] フィールドに「Administrator」と入力します。
- 3 [パスワード] フィールドには、インストール時に作成した管理者パスワードを入力します。

認可されていないユーザが ZENworks コントロールセンターにアクセスできないようにするために、ログインの試行で3回失敗した場合、管理者アカウントが無効化されます。また、ログインを再度試行するまでに、60秒のタイムアウトが実施されます。これらのデフォルト値を変更する場合は、『ZENworks 10 Configuration Management システム管理リファレンス』の「Changing the Default Login Disable Values」を参照してください。

- 4 [ログイン] をクリックして ZENworks コントロールセンターを表示します。

別の管理者としてログインする場合は、『ZENworks 10 Configuration Management システム管理リファレンス』の「ZENworks コントロールセンターへのアクセス」を参照してください。

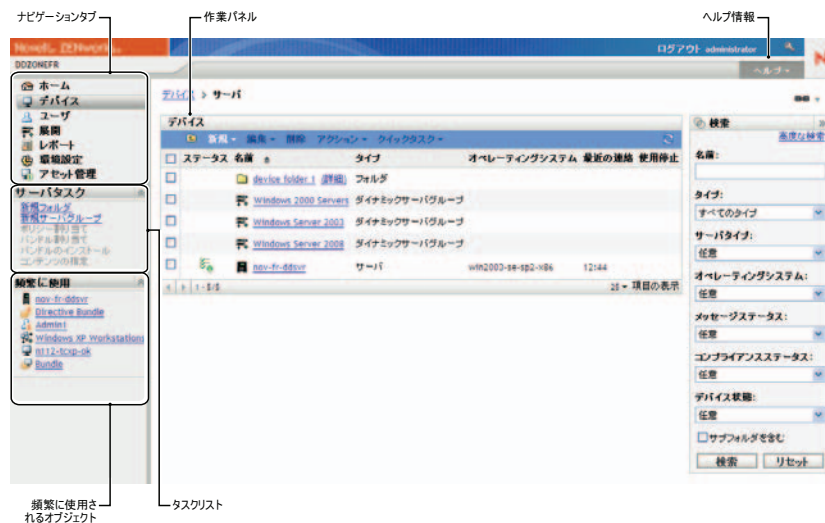
---

注：他の Novell 製品に対して管理ツールとして Novell iManager を使用している場合、iManager 経由で ZENworks コントロールセンターを使用できるように設定できます。詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management システム管理リファレンス』の「Novell iManager を使用した ZENworks コントロールセンターへのアクセス」を参照してください。

---

## 2.1.2 ZENworks コントロールセンターの操作

次の [サーバ] ページは、ZENworks コントロールセンターの標準的な画面を示しています。



**ナビゲーションタブ：**左側のウィンドウのタブを使用すると、ZENworks の機能領域を移動できます。たとえば、上記の [サーバ] ページでは、サーバに関連付けられたタスクを管理できます。

**タスクリスト：**左側のウィンドウのタスクリストからは、現在のページで最も頻繁に実行するタスクにすばやくアクセスできます。タスクリストはページごとに異なります。たとえば、[バンドル] ページのタスクリストにはバンドル関連のタスクが、[デバイス] ページのタスクリストにはデバイス関連のタスクがそれぞれ表示されます。



**頻繁に使用されるオブジェクト：**左側のウィンドウの「頻繁に使用」リストには、最も使用頻度の高い順から低い順に、アクセスした上位 10 のオブジェクトが表示されます。オブジェクトをクリックすると、直接そのオブジェクトの詳細ページに移動します。

**作業パネル：**作業パネルでは、ZENworks システムの管理および監視を行います。パネルは、現在のページによって異なります。上の例では、「デバイス」と「検索」という 2 つの作業パネルがあります。「デバイス」パネルには、サーバ、フォルダ、サーバグループ、作成されたダイナミックサーバグループのリストが表示されます。このパネルはサーバの管理に使用します。「検索」パネルでは、サーバ名、オペレーティングシステム、ステータスなどの条件に従って「デバイス」パネルをフィルタリングできます。

**ヘルプ情報：**「ヘルプ」ボタンは、現在のページに関する情報が提供されているヘルプトピックにリンクされています。「ヘルプ」ボタンのリンクは、現在のページによって異なります。

## 2.2 zman コマンドラインユーティリティ

zman ユーティリティには、ZENworks コントロールセンターで使用可能なタスクの大半を実行できる、コマンドライン管理インタフェースがあります。イメージング/プレブータタスク、リモート管理タスク、およびソフトウェアパッチタスクは実行できません。

zman ユーティリティの主要な目的は、スクリプトによって操作を実行できるようにすることです。ただし、コマンドラインから手動で操作を実行することもできます。

- ◆ 17 ページのセクション 2.2.1 「ディレクトリ」
- ◆ 17 ページのセクション 2.2.2 「構文」
- ◆ 18 ページのセクション 2.2.3 「コマンドのヘルプ」

### 2.2.1 ディレクトリ

このユーティリティは、次の場所のすべての ZENworks サーバにインストールされます。

%ZENWORKS\_HOME%\bin

%ZENWORKS\_HOME% は、ZENworks のインストールパスを示します。Windows では、デフォルトパスは c:\novell\zenworks\bin です。Linux\* では、デフォルトパスは opt/novell/zenworks/bin です。

### 2.2.2 構文

zman ユーティリティの基本的な構文は次のとおりです。

zman *category-action* [*options*]

たとえば、ソフトウェアバンドルをデバイスに割り当てる場合、次のコマンドを使用します。

zman bundle-assign workstation bundle1 wks1

ここで、bundle-assign が category-action となり、オプションは workstation bundle1 wks1 です。この例では、option はデバイスタイプ (workstation)、バンドル名 (bundle1)、およびターゲットデバイス (wks1) です。

## 2.2.3 コマンドのヘルプ

コマンドを理解するには、オンラインヘルプを使用するか、『ZENworks 10 Configuration Management コマンドラインユーティリティリファレンス』の「zman(1)」を参照するのが最も効果的です。

オンラインヘルプを使用するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks サーバのコマンドプロンプトで「zman --help」と入力します。

このコマンドでは、基本的な使用法 ( 構文 ) および使用可能なコマンドカテゴリのリストが表示されます。または次のように入力してヘルプを使用することもできます。

コマンド	説明
zman --help   more	カテゴリ別にすべてのコマンドが一覧表示されます。
zman category --help   more	カテゴリ内のすべてのコマンドが一覧表示されます。
zman command --help   more	コマンドのヘルプが表示されます。

## 2.3 zac コマンドラインユーティリティ

zac ユーティリティには、ZENworks Adaptive Agent で使用できるタスクを実行できるコマンドライン管理インタフェースが提供されています。

- 18 ページのセクション 2.3.1 「ディレクトリ」
- 18 ページのセクション 2.3.2 「構文」
- 19 ページのセクション 2.3.3 「コマンドのヘルプ」

### 2.3.1 ディレクトリ

このユーティリティは、次の場所のすべての Windows 管理対象デバイスにインストールされます。

%ZENWORKS\_HOME%\bin

%ZENWORKS\_HOME% は、ZENworks のインストールパスを示します。デフォルトパスは、c:\novell\zenworks\bin です。

### 2.3.2 構文

zac ユーティリティでは、次の基本的な構文を使用しています。

zac コマンドオプション

たとえば、バンドルをデバイスで起動するには、次のコマンドを使用します。

zac bundle-launch "bundle 1"

ここで、bundle-launch がコマンドとなり、コマンドオプションは bundle 1 です。この例では、オプションは起動されるバンドルの表示名です。バンドルの表示名にスペースが含まれている場合は、引用符で囲む必要があります。

### 2.3.3 コマンドのヘルプ

コマンドを理解するには、オンラインヘルプを使用するか、『*ZENworks 10 Configuration Management コマンドラインユーティリティリファレンス*』の「**zac(1)**」を参照するのが最も効果的です。

オンラインヘルプを使用するには、次の手順に従います。

- 1 管理対象デバイスのコマンドプロンプトで、次のコマンドのいずれかを入力します。

コマンド	説明
zac --help	コマンドの一覧が表示されます。
zac command --help	コマンドの詳細なヘルプが表示されます。



# ゾーン設定

Novell® ZENworks® 10 Configuration Management の目的は、多数のデバイスのソフトウェアやハードウェアアセットをできる限り少ない作業で効率的な管理を行えるようにすることです。この管理作業の最初のステップは、ZENworks の機能のすべての利点を利用できるように管理ゾーンを確実に設定することです。

次のセクションでは、実行する継続的な管理タスクを最大限にサポートする管理ゾーンをセットアップするために理解しておく必要がある基本概念について説明します。それぞれの項目は管理概念を説明し、概念に関連するタスクを実行するための一般的なステップを提供します。

- 21 ページのセクション 3.1 「デバイスの構成：フォルダとグループ」
- 26 ページのセクション 3.2 「デバイスを登録する」
- 31 ページのセクション 3.3 「ユーザソースへの接続」
- 32 ページのセクション 3.4 「ZENworks 管理者アカウントの作成」
- 35 ページのセクション 3.5 「環境設定の変更」

## 3.1 デバイスの構成：フォルダとグループ

ZENworks コントロールセンターを使用して、個々のデバイスオブジェクトで直接タスクを実行してデバイスを管理できます。ただし、この方法は管理するデバイスが少ない場合にのみ効率的です。多数のデバイスの管理を最適化するため、ZENworks ではデバイスをフォルダおよびグループに分類し、フォルダまたはグループごとにタスクを実行してデバイスを管理できます。

フォルダおよびグループは、いつでも作成できます。ただし、最もよい方法はフォルダおよびグループを作成し、デバイスをゾーンに登録することです。これによって、登録キーおよびルールを使用して、デバイスの登録時に自動的にデバイスを適切なフォルダおよびグループに追加することができます (26 ページの「デバイスを登録する」を参照)。

- 21 ページのセクション 3.1.1 「フォルダ」
- 23 ページのセクション 3.1.2 「グループ」
- 26 ページのセクション 3.1.3 「フォルダおよびグループの割り当ての継承」

### 3.1.1 フォルダ

フォルダは、デバイスを整理してデバイスの管理を簡素化するための優れたツールです。すべてのフォルダ上で、環境設定の適用、コンテンツの割り当て、タスクの実行を行えます。この場合、フォルダのデバイスはその設定、割り当て、タスクを継承します。

最適の結果を得るには、類似の環境設定要件のデバイスを同じフォルダに配置することです。フォルダ内のすべてのデバイスで同じコンテンツまたはタスクが必要な場合、フォルダにコンテンツを割り当てることもできます。ただし、フォルダ内のすべてのデバイスが同じコンテンツ、タスクの要件を持っているとは限りません。したがって、デバイスをグループに分類し、適切なコンテンツとタスクを各グループに割り当てることができます (次の 23 ページの「グループ」を参照)。

たとえば、3つの異なるサイトにワークステーションがあるとして、3つのサイトのワークステーションに対して異なる構成の設定を適用するとします。したがって、次の3つのフォルダ (/ワークステーション/ Site、/ワークステーション/ Site2、および/ワークステーション/ Site3) を作成し、各フォルダに該当するワークステーションを配置します。すべてのワークステーションに対してほとんど同じ構成の設定を適用するため、これらの設定は管理ゾーンで行います。ただし、サイト1とサイト2ではソフトウェアインベントリおよびハードウェアインベントリの収集を毎週実行し、サイト3では月に1回だけ収集を実行します。管理ゾーンでインベントリの収集を毎週に設定し、サイト3のフォルダを上書きして毎月を適用します。サイト1とサイト2ではインベントリを週次で収集し、サイト3ではインベントリを月次で収集します。

## フォルダの作成

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[デバイス] タブをクリックします。
- 2 [ワークステーション] フォルダをクリックします。

デバイス > ワークステーション



- 3 [新規] > [フォルダ] の順にクリックし、[新規フォルダ] ダイアログボックスを表示します。

?

×

新規フォルダ

名前: \*

フォルダ: \*

/デバイス/ワークステーション

説明:

\* アスタリスクでマークされているフィールドは必須です。

OK

キャンセル

- 4 [名前] フィールドに新しいフォルダの名前を入力します。

ZENworks コントロールセンターの中でオブジェクト (フォルダ、グループ、バンドル、ポリシーなど) に名前を付ける場合は、名前が次の規則に従うようにしてください:

- 名前はフォルダ内で一意である必要があります。
- ZENworks データベースに使用されているデータベースソフトウェアによっては、同じ名前に対して大文字および小文字が区別されない場合があります。  
ZENworks Configuration Management に含まれる組み込みデータベースは大文字と小文字を区別しないため、「Folder 1」と「FOLDER 1」は同じ名前とみなされ、同じフォルダ内で使用することはできません。大文字と小文字を区別する外部データベースを使用している場合、Folder 1 と FOLDER 1 は別個となります。
- 空白を使用する場合、コマンドラインに名前を入力するには、引用符で囲む必要があります。たとえば、zman ユーティリティで「Folder 1」と入力するには、引用符で囲む必要があります (“Folder 1”)。
- 次の文字は無効なので使用できません。 \ / \* ? : " ' < > | ` % ~

5 [OK] をクリックしてフォルダを作成します。

また、zman ユーティリティで workstation-folder-create および server-folder-create コマンドを使用してデバイスフォルダを作成することもできます。詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management コマンドラインユーティリティリファレンス』の「ワークステーションコマンド」および「サーバコマンド」を参照してください。

### 3.1.2 グループ

フォルダと同様、デバイスグループにコンテンツを割り当て、タスクを実行することもできます。この場合、グループのデバイスはその割り当てとタスクを継承します。フォルダとは異なり、環境設定をグループに適用することはできません。

グループにより、コンテンツ割り当てとタスクに層が追加され、柔軟性が増します。一部のケースで、フォルダにあるすべてのデバイスに同じコンテンツを割り当てて、同じタスクを実行したくない場合があります。また、同じコンテンツを別のフォルダ内の 1 つ以上のデバイスに割り当て、タスクを実行したい場合があります。これを行うには、デバイスをグループに追加して (どのフォルダにデバイスが含まれているかにかかわらず)、コンテンツをグループに割り当て、タスクを実行します。

たとえば、また 3 つのサイトのワークステーションの例でみましょう (21 ページのセクション 3.1.1 「フォルダ」を参照)。各サイトのいくつかのワークステーションで同じ会計ソフトウェアが必要であるとして、グループに対してソフトウェアを割り当てるのが可能であるため、Accounting グループを作成し、対象となるワークステーションをそのグループに追加し、適切な会計ソフトウェアをそのグループに割り当てます。

グループに対して割り当てを行う利点は、そのグループに含まれるすべてのデバイスが割り当てを受け取りますが、割り当ては 1 回実行するだけですみます。さらに、1 つのデバイスが複数の一意のグループに属することができ、複数のグループからの割り当てを受け取ることができます。たとえば、あるデバイスをグループ A とグループ B に割り当てるとすると、デバイスは両方のグループに割り当てられたソフトウェアを継承します。

ZENworks ではグループと動的グループの両方が提供されています。コンテンツ割り当て、またはタスクの実行の観点から見ると、グループおよびダイナミックグループ機能はまったく同じです。2 つのタイプのグループの唯一の違いは、グループにデバイスを追加

する方法です。グループの場合は、手動でデバイスを追加する必要があります。動的グループでは、グループのメンバに合致するデバイスの条件を定義しておき、デバイスがその条件に一致すると自動的に追加されます。

ZENworks には、いくつかの事前定義された動的サーバグループ (Windows 2000 Servers および Windows 2003 Servers) と動的ワークステーショングループ (Windows XP Workstation、Windows 2000 Workstation、および Windows Vista Workstations) が含まれています。これらのオペレーティングシステムを持つデバイスはすべて、自動的に該当する動的グループに追加されます。

## グループの作成

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[デバイス] タブをクリックします。
- 2 サーバ用のグループを作成する場合は、[サーバ] フォルダをクリックします。

または

ワークステーション用のグループを作成する場合は、[ワークステーション] フォルダをクリックします。

[デバイス](#) > [ワークステーション](#)



- 3 [新規] > [サーバグループ] (またはワークステーションの場合は [新規] > [ワークステーショングループ]) の順にクリックして新しいグループの作成ウィザードを起動します。

[デバイス](#) > [ワークステーション](#) > [新しいグループの作成](#)

新しいグループの作成

ステップ 1: 基本情報

グループ名: \*

フォルダ: \*

説明:

アスタリスクでマークされているフィールドは必須です。

<< 戻る

次 >>

キャンセル

- 4 [基本情報] ページで、[グループ名] フィールドに新規グループの名前を入力し、[次へ] をクリックします。

グループ名は**命名規則**に準拠している必要があります。



- 5 [サマリ] ページで [完了] をクリックし、メンバを追加しないでグループを作成します。  
または  
グループにメンバーを追加する場合は [次へ] をクリックしてから **ステップ 6** に進みます。
- 6 [グループメンバの追加] ページで、[追加] をクリックしてグループにデバイスを追加し、デバイスの追加が完了したら [次へ] をクリックします。
- 7 [サマリ] ページで [完了] をクリックしてグループを作成します。

また、zman ユーティリティで workstation-group-create および server-group-create コマンドを使用してデバイスグループを作成することもできます。詳細については、『**ZENworks 10 Configuration Management コマンドラインユーティリティリファレンス**』の「ワークステーションコマンド」および「サーバコマンド」を参照してください。

## 動的グループの作成

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[デバイス] タブをクリックします。
- 2 サーバ用のグループを作成する場合は、[サーバ] フォルダをクリックします。  
または  
ワークステーション用のグループを作成する場合は、[ワークステーション] フォルダをクリックします。

デバイス > ワークステーション

デバイス					
新規 ▾ 編集 ▾ 削除 アクション ▾ クイックタスク ▾					
<input type="checkbox"/>	ステ	フォルダ...	タイプ	オペレーティングシステム	最近の連絡
<input type="checkbox"/>		ワークステーショングループ...			使用停止
<input type="checkbox"/>		動的ワークステーショングループ...	動的ワークステーショングループ		
<input type="checkbox"/>		Windows Vista Workstations	動的ワークステーショングループ		
<input type="checkbox"/>		Windows XP Workstations	動的ワークステーショングループ		
<input type="checkbox"/>		symclient	ワークステーション	winxp-pro-sp3-x86	8 7

- 3 [新規作成] > [ダイナミックサーバグループ] (またはワークステーション用の場合は [新規作成] > [ダイナミックワークステーショングループ]) の順にクリックして、新しいグループの作成ウィザードを起動します。

新しいダイナミックグループの作成

ステップ 1: 基本情報

グループ名: \*

フォルダ: \*

説明:

アスタリスクでマークされているフィールドは必須です。

<< 戻る

次 >>

キャンセル

- 4 [基本情報] ページで、[グループ名] フィールドに新規グループの名前を入力し、[次へ] をクリックします。  
グループ名は**命名規則**に準拠している必要があります。
- 5 [グループメンバー用のフィルタの定義] ページで、デバイスがグループのメンバーになるために満たす必要がある条件を定義して、[次へ] をクリックします。  
[ヘルプ] ボタンをクリックすると、条件の作成の詳細が表示されます。
- 6 [サマリ] ページで、[完了] をクリックしてグループを作成します。

### 3.1.3 フォルダおよびグループの割り当ての継承

フォルダにコンテンツを割り当てる場合、フォルダ内にあるグループを除くすべてのオブジェクト (ユーザ、デバイス、サブフォルダ) が割り当てを継承します。たとえば、BundleA を DeviceFolder1 に割り当てると、フォルダ内のすべてのデバイス (サブフォルダ内のすべてのデバイスも含む) が BundleA の割り当てを継承します。ただし、DeviceFolder1 にあるデバイスグループは、割り当てを継承しません。原則的に、フォルダの割り当ては、そのフォルダ内にあるグループには適用されません。

## 3.2 デバイスを登録する

ZENworks Adaptive Agent をデバイスを展開するとき、デバイスは管理ゾーンに登録され、管理対象デバイスとなります。登録の一貫として、デバイスの ZENworks 名およびデバイスを追加するフォルダまたはグループを指定できます。

デフォルトでは、デバイスのホスト名として ZENworks の名前が使用され、/Servers または /Workstations フォルダに追加され、他のグループのメンバーにはなりません。手動でデバイスを別のフォルダに移動してグループに追加できますが、デバイスの数が多い場合や新規デバイスを連続して登録する場合には、面倒な仕事である場合もあります。大量のデバイスを管理する最もよい方法は、登録時にデバイスを自動で正しいフォルダおよびグループに追加することです。

登録時にデバイスをフォルダおよびグループに追加するには、登録キーまたは登録ルール、あるいはその両方を使用できます。登録キーまたは登録ルールの両方とも、フォルダおよびグループメンバをデバイスに割り当てることができます。ただし、登録にどちらか1つまたは両方を使用するかどうかを選択する前に、キーとルールには違いがあることに留意してください。

- ◆ 27 ページのセクション 3.2.1 「登録キー」
- ◆ 28 ページのセクション 3.2.2 「登録ルール」
- ◆ 30 ページのセクション 3.2.3 「デバイス命名テンプレート」
- ◆ 31 ページのセクション 3.2.4 「その他の情報の参照場所」

### 3.2.1 登録キー

登録キーは、手動で定義またはランダムに生成された英数字の文字列です。デバイスにZENworks Adaptive Agentを展開するとき、登録キーが必要となります。最初にデバイスをZENworks Serverに接続するときに、デバイスはキー内に定義されているフォルダまたはグループに追加されます。

1つまたは複数の登録キーを作成して、デバイスが希望のフォルダおよびグループ内にあるようにすることができます。たとえば、すべての販売部のワークステーションが /Workstations/Sales フォルダに追加されているが、チーム割り当てによって、これが3つのグループ (SalesTeam1, SalesTeam2, SalesTeam3) に分かれるようにすることができます。3つの登録キーを作成して、各キーを設定し、販売部のワークステーションを /Workstations/Sales フォルダと適切なチームグループに追加することもできます。各ワークステーションが正しい登録キーを使用している限りは、これは適切なフォルダおよびグループに追加されます。

登録キーを作成するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[設定] タブをクリックし、次に [登録] タブをクリックします。



- 2 [登録キー] パネルで、[新規作成] > [登録キー] の順にクリックして、新規登録キーの作成ウィザードを起動します。

新規登録キーの作成

ステップ 1: 基本情報

新しい登録キーの名前、説明、および制限を入力します。[生成] ボタンをクリックすると、一意の名前が生成されます。

キーコード: \*

フォルダ: \*

説明:

このキーを使用できる回数:

☒ 無制限
 ☐ 制限:

\* アスタリスクでマークされているフィールドは必須です。

### 3 プロンプトに従って、キーを作成します。

ウィザードの各ステップで何を指定するかの詳細については、[ヘルプ] ボタンをクリックしてください。

zman ユーティリティで `registration-create-key` コマンドを使用して登録キーを作成することもできます。詳細については、『*ZENworks 10 Configuration Management コマンドラインユーティリティリファレンス*』の「登録コマンド」を参照してください。

## 3.2.2 登録ルール

展開中に登録キーを入力しない場合、またはデバイスを自動的に前もって定義された条件 (オペレーティングシステムタイプ、CPU、または IP アドレスなど) に基づいて別のフォルダおよびグループに追加しない場合は、登録ルールを使用できます。

ZENworks には、サーバとワークステーションについてそれぞれ別のデフォルト登録ルールがあります。キーを使わずにデバイスを登録し、登録ルールが作成されていない場合、デフォルトの登録ルールが適用されて、フォルダの割り当てが決まります。2 つのデフォルトルールによって、すべてのサーバは /Servers フォルダに追加され、すべてのワークステーションは /Workstations フォルダに追加されます。

2 つのデフォルトルールは、サーバまたはワークステーションの登録が失敗しないように指定されています。したがって、これら 2 つのデフォルトルールを削除したり変更したりすることはできません。ただし、デバイスの登録時にデバイスをフィルタして異なるフォルダやグループに追加できるようにする追加のルールを定義できます。[21 ページのセクション 3.1「デバイスの構成: フォルダとグループ」](#)で推奨されているように、類似した環境設定を持つデバイス用のフォルダ、および類似した割り当てを持ち、同様のタスクを実行する必要があるデバイス用のグループがすでに作成されている場合、新しく登録されたデバイスは該当する環境設定および割り当てを自動的に継承します。

登録ルールを作成するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[設定] タブをクリックし、次に [登録] タブをクリックします。



- 2 [登録ルール] パネルで、[新規作成] をクリックして新規登録ルールの作成ウィザードを起動します。

**新規ルールの作成**  
🔧 ステップ 1: 基本情報

新規ルールの名前と説明を入力します。

名前: \*

説明:

<< 戻る 次 >> キャンセル

- 3 プロンプトに従って、ルールを作成します。

ウィザードの各ステップで何を指定するかの詳細については、[ヘルプ] ボタンをクリックしてください。

zman ユーティリティで `ruleset-create` コマンドを使用して登録ルールを作成することもできます。詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management コマンドラインユーティリティリファレンス』の「ルールセットコマンド」を参照してください。

### 3.2.3 デバイス命名テンプレート

デバイス命名テンプレートに従って、登録時にデバイスの名前が付けられます。デフォルトでは、デバイスのホスト名が使用されます。次のマシン変数、`${HostName}`、`${GUID}`、`${OS}`、`${CPU}`、`${DNS}`、`${IPAddress}` を組み合わせて自由に名前を変更できます。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、**[設定]** タブをクリックします。
- 2 **[管理ゾーンの設定]** パネルで、**[デバイス管理]** をクリックします。



- 3 **[登録]** をクリックして **[登録]** ページを表示します。

[環境設定](#) > [登録](#)

**登録**

登録設定を構成します。

**デバイス命名テンプレート**

新規マシンの名前:

**登録ルール**

☒ 登録ルールの使用を有効にします。

☒ デフォルト登録ルールの使用を有効にします。

**デバイスの動的名前変更**

☐ デバイスの自動名前変更を有効にします。

- 4 **[デバイス命名テンプレート]** パネルで、 をクリックして、リストから目的のマシン変数を選択します。

1 つまたは複数の変数の組み合わせで使用できます (例 :

`${HostName}${GUID}` など)。

5 [OK] をクリックし、変更を保存します。

### 3.2.4 その他の情報の参照場所

デバイスの登録の詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management 検出、展開、およびリタイアのリファレンス』を参照してください。

## 3.3 ユーザソースへの接続

コンテンツをデバイスに割り当てるだけでなく、ユーザに割り当てることができます。デバイス割り当て済みコンテンツとは異なり、ユーザ割り当て済みコンテンツは、ユーザが管理ゾーンにログインしている間のみデバイスで使用可能です。

コンテンツをユーザに割り当てることができるようにするために、ユーザが含まれている LDAP ディレクトリに読み込み専用の接続を作成できます。これによって ZENworks データベースにユーザオブジェクトの参照が作成されて、ZENworks コントロールセンターでユーザを認識できるようになり、割り当てを行うことができます。LDAP ディレクトリに影響はありません。ZENworks で必要なのは LDAP ディレクトリへの読み込みアクセスのみで、すべての割り当て情報は ZENworks データベースに保存されます。ユーザソースに接続する際に必要となる特定の読み取り権の詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management システム管理リファレンス』を参照してください。

ユーザソースとして Novell eDirectory™ および Microsoft\* Active Directory\* に接続できます。最小要件は、Windows 2000 SP4 にインストールされた Novell eDirectory 8.7.3 および Microsoft Active Directory です。LDAP の最小要件はバージョン 3 です。

LDAP ディレクトリに接続した後、ユーザ名を表示するディレクトリ内にコンテナを定義します。たとえば、MyCompany という名前の Microsoft Active Directory ドメインツリーを使用しているとします。すべてのユーザは、MyCompany ツリーの MyCompany/Users および MyCompany/Temp/Users という 2 つのコンテナに属しています。MyCompany ツリーをソースとして、MyCompany/Users および MyCompany/Temp/Users を別々のユーザコンテナとして参照できます。こうすることで、ディレクトリ内部でのアクセスをユーザを含むコンテナのみに制限できます。

追加したコンテナに属するユーザに加えて、ZENworks コントロールセンターではコンテナ内に含まれるユーザグループも表示されます。これで、個々のユーザとユーザグループの両方の管理を行えるようになります。

ユーザソースに接続するには、次の手順に従います。

1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。

環境設定   登録   システム情報   アセットインベントリ   アセット管理   システム更新

管理ゾーンの設定

サーバの階層

管理者

役割

ユーザソース

新規   削除

☐ ステータス   名前

使用できる項目がありません。

ライセンス

アカウント情報ポルト

- 2 [ユーザソース] パネルで、[新規] をクリックして、新規ユーザソースの作成ウィザードを起動します。

[ユーザ](#) > 新規ユーザソースの作成

新規ユーザソースの作成

🔧 ステップ 1: 接続情報

ユーザソースを設定すると、バンドルおよびポリシーオブジェクトをLDAPディレクトリに含まれているIDIに割り当てることができます。LDAPディレクトリに関する接続情報を入力してください。

アドレス:\*

☒ SSLの使用

ポート:

ルートLDAPコンテキスト:  オプション

(例: dc=company,dc=com)

<< 戻る   次 >>   キャンセル

- 3 プロンプトに従ってユーザソースを作成します。
- ウィザードの各ステップで何を指定するかの詳細については、[ヘルプ] ボタンをクリックしてください。

zman ユーティリティで user-source-create コマンドを使用してユーザソースへの接続を作成することもできます。詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management コマンドラインユーティリティリファレンス』の「ユーザコマンド」を参照してください。

## 3.4 ZENworks 管理者アカウントの作成

インストール中に、デフォルトの ZENworks 管理者アカウント (Administrator) が作成されます。このアカウントはスーパー管理者アカウントと呼ばれ、管理ゾーンに対するフル管理権を提供します。



通常、管理タスクを実行する各ユーザに対して管理者アカウントを作成します。これらのアカウントをスーパー管理者アカウントとして定義するか、または制限された権限を持つ管理者アカウントとして定義できます。たとえば、管理ゾーン内のデバイスの検出と登録のみを許可する管理者アカウントをユーザに付与できます。または、デバイスへのバンドルの割り当てのみを許可するアカウントを作成することもできます。または、契約、ライセンス、文書管理などのアセット管理タスクの実行にアカウントを制限することができます。

場合によっては、複数の管理者アカウントに同じ管理権が必要になることがあります。各アカウントに個別に権限を割り当てるのではなく、管理者の役割を作成して、役割に管理権を割り当て、アカウントを役割に追加できます。たとえば、数人の管理者が必要とする管理権を提供するヘルプデスク役割を作成します。

追加管理者アカウントを作成するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。

名前	フルネーム	ユーザソース内のユーザ名
使用できる項目がありません。		

- 2 [管理者] パネルで、[新規] をクリックして [新しい管理者の追加] ダイアログボックスを表示します。

**新しい管理者の追加** [?] [X]

管理者を作成する方法は2つあります：

☒ 名前およびパスワードを指定して新しい管理者を作成します。

管理者名：

フルネーム：

パスワード：

パスワードを再入力してください：

☐ ユーザソース内のユーザを基準にする  
信頼されたソースで定義された同じアカウント情報を使用します。

**追加 削除**

<input type="checkbox"/>	名前	フォルダ内
項目を選択していません、[追加]をクリックして項目を選択します。		

☐ 自分の持っているのと同じ権限をこの管理者に付与します。  
アスタリスクでマークされているフィールドは必須です。

**OK** **キャンセル**

**3** 次のフィールドに情報を入力します。

[新しい管理者の追加] ダイアログボックスでは、名前またはパスワードを提供して新しい管理者アカウントを作成できます。またはユーザソースの既存のユーザに基づいて新しい管理者を作成できます。オプションで、ログインしている管理者同じ権限を新しい管理者に付与できます。

**名前とパスワードを提供して新しい管理者を作成する：**このオプションは、手動で名前およびパスワードを指定して新しい管理者アカウントを作成する場合にのみ選択してください。

**ユーザソースのユーザに基づく：**このオプションは、ユーザソースからのユーザ情報に基づいて新しい管理者アカウントを作成する場合に選択してください。これを行うには、[追加] をクリックして、目的のユーザを参照して選択します。

**自分の持っているのと同じ権限をこの管理者に付与します：**このオプションは、新しい管理者に、現在ログインしている管理者と同じ権利を割り当てます。

**4** フィールドに入力が完了したら [OK] をクリックして新しい管理者を [管理者] パネルに追加します。

**5** 新規の管理者の権限または役割を変更する必要がある場合は、管理者アカウントをクリックしてアカウントの詳細を表示します。

全般			
管理者のフルネーム: <input type="text" value="First Admin"/>			
<input checked="" type="checkbox"/> スーパー管理者			
メモ: [スーパー管理者] チェックボックスがオンになっている場合は、この管理者はすべての権限があるスーパー管理者です。これにより、(許可される、拒否される、または設定されない) 割り当て済みのすべての権限が上書きされます。			

割り当てられた権限			
追加 編集 削除			
<input type="checkbox"/> タイプ	コンテキスト	許可	拒否
使用できる項目がありません。			
メモ: 各管理者には表示権限が与えられ、それらは削除できません。			

割り当て済みの役割		
追加 編集 削除		
<input type="checkbox"/> 役割	タイプ	コンテキスト
使用できる項目がありません。		

- 6 [割り当てられた権限] パネルを使用して割り当てられている権限を変更します。  
このページで使用できるオプションの詳細については、[ヘルプ] ボタンをクリックするか、『ZENworks 10 Configuration Management システム管理リファレンス』の「**管理者権限の管理**」を参照してください。
- 7 権限の変更が完了したら、[適用] をクリックして変更内容を保存します。

ZENworks 管理者アカウントまたは管理者役割の作成の詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management システム管理リファレンス』の「**管理者**」を参照してください。

z man ユーティリティで admin-create コマンドを使用して ZENworks 管理者アカウントを作成することもできます。詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management コマンドラインユーティリティリファレンス』の「**管理者コマンド**」を参照してください。

## 3.5 環境設定の変更

管理ゾーンの環境設定では、ゾーンでの様々な機能の動作を制御できます。デバイスにコンテンツを配布する時間および ZENworks のサーバ間でコンテンツを複製する頻度 (複数のサーバがある場合) を制御する [コンテンツ] 設定があります。デバイス管理設定では、デバイスが更新された情報を確認するために ZENworks サーバにアクセスする頻度、動的グループの更新頻度、およびどのレベルのメッセージ (情報、警告、またはエラー) を ZENworks Adaptive Agent で記録するかを制御することができます。イベントおよびメッセージの設定、ディスカバリおよび展開の設定、その他さまざまな設定があります。

デバイスに適用する管理ゾーンの設定は、ゾーン内のすべてのデバイスに継承されます。**21 ページのセクション 3.1 「デバイスの構成: フォルダとグループ」** で説明したように、ゾーン設定をデバイスフォルダまたは個別のデバイス上で設定することによって上書きすることができます。これにより、必要に応じて最多のデバイスに適用するゾーン設定を確立して、フォルダおよびデバイス状の設定を上書きすることができます。

デフォルトでは、ゾーンの設定は一般的な機能を提供する値を使用して事前に設定されています。ただし、使用している環境で必要な動作に適応するように設定を変更することができます。

- ◆ **36 ページのセクション 3.5.1 「ゾーンでの環境設定の変更」**

- ◆ 37 ページのセクション 3.5.2 「フォルダの環境設定の変更」
- ◆ 38 ページのセクション 3.5.3 「デバイスでの環境設定の変更」

## 3.5.1 ゾーンでの環境設定の変更

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。
- 2 [管理ゾーンの設定] パネルで、変更する設定の設定カテゴリ ( [コンテンツ]、[デバイス管理]、[ディスクバリと展開]、[イベントとメッセージング] など) をクリックします。

環境設定	登録	システム情報	アセットインベントリ	アセット管理	システム更新
管理ゾーンの設定					
コンテンツ					
デバイス管理					
カテゴリ	説明				
<a href="#">ローカルデバイスのログ</a>	管理対象デバイスが遭遇した警告およびエラーのローカルログを有効にして設定します。				
<a href="#">デバイスの更新スケジュール</a>	デバイスの更新間隔を設定します。				
<a href="#">ZENworks エージェント</a>	ZENworks エージェントを設定します。				
<a href="#">登録</a>	登録設定を構成します。				
<a href="#">ZENworks Explorer 設定</a>	管理対象デバイス上での ZENworks Explorer の動作を設定します。				
<a href="#">システム変数</a>	システム変数を設定します。				
<a href="#">起動前サービス</a>	ブレードサービスを設定します。				
<a href="#">プライマリユーザ</a>	プライマリユーザの決定方法の設定を構成します。				
<a href="#">プライマリワークステーション</a>	プライマリワークステーションの決定方法の設定を構成します。				
<a href="#">ダイナミックグループの更新スケジュール</a>	ダイナミックグループの更新スケジュールを設定します。				
<a href="#">Wake-on-LAN</a>	Wake-on-LAN 設定を構成します。				
<a href="#">リモート管理</a>	リモート管理を有効にして設定します。				
ディスクバリと展開					
イベントとメッセージング					
インフラ管理					
インベントリ					
レポートングサービス					
アセット管理					
パッチ管理					

環境設定	登録	システム情報	アセットインベントリ	アセット管理	システム更新
管理ゾーンの設定					
コンテンツ					
デバイス管理					
カテゴリ	説明				
<a href="#">ローカルデバイスのログ</a>	管理対象デバイスが遭遇した警告およびエラーのローカルログを有効にして設定します。				
<a href="#">デバイスの更新スケジュール</a>	デバイスの更新間隔を設定します。				
<a href="#">ZENworks エージェント</a>	ZENworks エージェントを設定します。				
<a href="#">登録</a>	登録設定を構成します。				
<a href="#">ZENworks Explorer 設定</a>	管理対象デバイス上での ZENworks Explorer の動作を設定します。				
<a href="#">システム変数</a>	システム変数を設定します。				
<a href="#">起動前サービス</a>	ブレードサービスを設定します。				
<a href="#">プライマリユーザ</a>	プライマリユーザの決定方法の設定を構成します。				
<a href="#">プライマリワークステーション</a>	プライマリワークステーションの決定方法の設定を構成します。				
<a href="#">ダイナミックグループの更新スケジュール</a>	ダイナミックグループの更新スケジュールを設定します。				
<a href="#">Wake-on-LAN</a>	Wake-on-LAN 設定を構成します。				
<a href="#">リモート管理</a>	リモート管理を有効にして設定します。				
ディスクバリと展開					
イベントとメッセージング					
インフラ管理					
インベントリ					
レポートングサービス					
アセット管理					
パッチ管理					

- 3 設定をクリックして、詳細ページを表示します。
- 4 必要に応じて、設定を変更します。

設定に関する詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management システム管理 リファレンス』の「管理ゾーン環境設定」を参照するか、ZENworks コントロールセンターの「ヘルプ」ボタンをクリックします。

- 5 設定の変更が完了したら、[OK] (または [適用] ) をクリックして変更内容を保存します。

環境設定がデバイスに適用されると、設定がフォルダレベルまたはデバイスレベルで上書きされない限り、設定はゾーン内のすべてのデバイスに継承されます。

### 3.5.2 フォルダの環境設定の変更

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[デバイス] タブをクリックします。
- 2 [デバイス] パネル ( [管理対象] タブ ) で、設定を変更するフォルダを参照します。
- 3 フォルダを見つけたら、フォルダ名の横にある [詳細] をクリックしてフォルダの詳細を表示します。
- 4 [設定] タブをクリックします。
- 5 [設定] パネルで、設定を変更するカテゴリ ( [コンテンツ]、[デバイス管理]、[インフラストラクチャ管理] など ) をクリックします。

[デバイス](#) > ワークステーション

ワークステーション		
概要	関係	設定
設定		
コンテンツ		⌵
デバイス管理		⌵
カテゴリ	説明	[ ] から継承
<a href="#">デバイスの更新スケジュール</a>	デバイスの更新間隔を設定します。	(システム)
<a href="#">ZENworksエージェント</a>	ZENworksエージェントの設定	---
<a href="#">ローカルデバイスのログ</a>	管理対象デバイスが遭遇した警告およびエラーのローカルログを有効にして設定します。	(システム)
<a href="#">デバイスの動的名前変更</a>	デバイスの自動名前変更を有効にします。	(システム)
<a href="#">起動前サービス</a>	ブート前サービスを設定します。	---
<a href="#">リモート管理</a>	リモート管理を有効にして設定します。	(システム)
<a href="#">プライマリユーザ</a>	プライマリユーザの決定方法の設定を構成します。	---
<a href="#">登録</a>	登録設定を構成します。	(システム)
インフラ管理		⌵
インベントリ		⌵
アセット管理		⌵

- 6 設定をクリックして、詳細ページを表示します。
- 7 必要に応じて、設定を変更します。

設定に関する詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management システム管理 リファレンス』の「管理ゾーン環境設定」を参照するか、ZENworks コントロールセンターの「ヘルプ」ボタンをクリックします。

- 8 設定の変更が完了したら、[OK] (または [適用] ) をクリックして変更内容を保存します。

環境設定は、設定がサブフォルダまたは個別のデバイス上で上書きされない限り、サブフォルダに含まれるすべてのデバイスを含めフォルダ内のすべてのデバイスによって継承されます。

### 3.5.3 デバイスでの環境設定の変更

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[デバイス] タブをクリックします。
- 2 [デバイス] パネル ([管理対象] タブ) で、設定を変更するデバイスを参照します。
- 3 デバイスを見つけたら、デバイス名をクリックしてフォルダの詳細を表示します。
- 4 [設定] タブをクリックします。
- 5 [設定] パネルで、設定を変更するカテゴリ ([コンテンツ]、[デバイス管理]、[インフラストラクチャ管理] など) をクリックします。

デバイス > サーバ > zendoc1a

zendoc1a

概要	インベントリ	関係	設定	コンテンツ	統計情報	バッチ
----	--------	----	----	-------	------	-----

設定		
コンテンツ		⌵
デバイス管理		⌵
カテゴリ	説明	から継承
<a href="#">ローカルデバイスのログ</a>	管理対象デバイスが遭遇した警告およびエラーのローカルログを有効にして設定します。	(システム)
<a href="#">デバイスの更新スケジュール</a>	デバイスの更新間隔を設定します。	(システム)
<a href="#">ZENworksエージェント</a>	ZENworksエージェントを設定します。	(システム)
<a href="#">ZENworks Explorer設定</a>	管理対象デバイス上でのZENworks Explorerの動作を設定します。	(システム)
<a href="#">システム変数</a>	システム変数を設定します。	---
<a href="#">起動前サービス</a>	ブートサービスを設定します。	---
<a href="#">プライマリユーザ</a>	プライマリユーザの決定方法の設定を構成します。	---
<a href="#">リモート管理</a>	リモート管理を有効にして設定します。	(システム)
インフラ管理		⌵
インベントリ		⌵
アセット管理		⌵

デバイス > ワークステーション > zendocwks1

zendocwks1

概要	インベントリ	関係	設定	コンテンツ	バッチ
----	--------	----	----	-------	-----

設定		
コンテンツ		⌵
デバイス管理		⌵
カテゴリ	説明	から継承
<a href="#">ローカルデバイスのログ</a>	管理対象デバイスが遭遇した警告およびエラーのローカルログを有効にして設定します。	(システム)
<a href="#">デバイスの更新スケジュール</a>	デバイスの更新間隔を設定します。	(システム)
<a href="#">ZENworksエージェント</a>	ZENworksエージェントを設定します。	(システム)
<a href="#">ZENworks Explorer設定</a>	管理対象デバイス上でのZENworks Explorerの動作を設定します。	(システム)
<a href="#">システム変数</a>	システム変数を設定します。	---
<a href="#">起動前サービス</a>	ブートサービスを設定します。	---
<a href="#">プライマリユーザ</a>	プライマリユーザの決定方法の設定を構成します。	---
<a href="#">リモート管理</a>	リモート管理を有効にして設定します。	(システム)
インフラ管理		⌵
インベントリ		⌵
アセット管理		⌵

- 6 設定をクリックして、詳細ページを表示します。
- 7 必要に応じて、設定を変更します。

設定に関する詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management システム管理  
リファレンス』の「管理ゾーン環境設定」を参照するか、ZENworks コントロールセ  
ンターの [ヘルプ] ボタンをクリックします。

- 8 設定の変更が完了したら、[OK] (または [適用]) をクリックして変更内容を保存  
します。





# ZENworks Adaptive Agent の展開

# 4

Novell® ZENworks® 10 Configuration Management は、管理するデバイスに ZENworks Adaptive Agent を展開するために使用できるさまざまな方法を提供します。このセクションでは、最も一般的な 2 つの方法、Web インストールおよび ZENworks コントロールセンター展開タスクについて説明します。その他の方法の情報については、『*ZENworks 10 Configuration Management 検出、展開、リタイアリファレンス*』を参照してください。

展開タスクを使用して Adaptive Agent をデバイスにインストールするよう計画している場合は、最初にネットワーク検出またはファイルインポートのいずれかを使用して目的のデバイスをユーザの管理ゾーンに追加する必要があります。次にリストされている最初の 2 つのセクションは、ネットワークディスカバリおよびファイルインポートの使用方を説明しています。残りのセクションでは、インストール手順と使用手順について説明します。セクションでは、ZENworks Adaptive Agent のインストール手順について説明します。

- 41 ページのセクション 4.1 「ネットワークデバイスの検出」
- 42 ページのセクション 4.2 「デバイスのインポート」
- 43 ページのセクション 4.3 「ZENworks Adaptive Agent のインストール」
- 50 ページのセクション 4.4 「ZENworks Adaptive Agent の使用」

---

注：デバイスが ZENworks Adaptive Agent をインストールする要件を満たさない場合は（『*ZENworks 10 Configuration Management インストールガイド*』の「**管理対象デバイスの要件**」を参照）、インベントリのみモジュールをインストールして、デバイスのインベントリをサポートすることができます。詳細については、『*ZENworks 10 Configuration Management 検出、展開、リタイアリファレンス*』を参照してください。

---

## 4.1 ネットワークデバイスの検出

ZENworks サーバで ZENworks Adaptive Agent を自動的にデバイスに展開する場合は、まず最初に管理ゾーンにデバイスを追加する必要があります。これを行うには、次の 2 つのオプションがあります：1)ZENworks 検出技術を使用してネットワーク上のデバイスを検出して ZENworks コントロールセンターに表示する。または 2) カンマ区切り値 (CSV) ファイルからインポートする。

このセクションでは検出技術の使用法について説明します。CSV ファイルからデバイスをインポートする方法の詳細については、42 ページのセクション 4.2 「デバイスのインポート」を参照してください。

実行できる検出には2つのタイプがあります。

- **IP 検出**: IP アドレス範囲を指定することができます。デフォルトでは、6つのディスカバリテクノロジー(WMI、WinAPI、MAC Address、ZENworks、SNMP、SSH、NMAP)を使用します。それぞれの検出技術からは、検出済みデバイスに関するさまざまなレベルの情報(OSバージョン、DNS名など)が返されます。
- **LDAP 検出**: LDAP ディレクトリコンテキストを指定してすべてのデバイスタイプのオブジェクト(ワークステーション、サーバなど)を検索します。検出されるデバイスオブジェクトは、デバイスのOSバージョンおよびDNS名を判別するために周知の属性(dnsHostName、OperatingSystem、wmNameDNS、wmNameOSなど)に対してクエリが行われます。

いずれかの検出を実行するには、検出タスクを作成する必要があります。検出タスクでは、検索するソース(IPアドレス範囲またはLDAPディレクトリ)の識別、検出されたデバイスからの情報の取得に必要な資格情報の指定、検出を開始する日時のスケジュール、および検出を実行するZENworksサーバの選択を行うことができます。検出タスクの作成方法の詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management 検出、展開、リタイアリファレンス』を参照してください。

## 4.2 デバイスのインポート

ZENworks サーバで ZENworks Adaptive Agent を自動的にデバイスに展開する場合は、まず初めに管理ゾーン内でデバイスを識別する必要があります。これを行うには、2つのオプションがあります。1) カンマ区切り値(CSV)ファイルからインポート、または2) ZENworks 検出技術を使用してネットワーク上のデバイスを検索して ZENworks コントロールセンターに表示することができます。

このセクションでは、CSV ファイルからデバイスをインポートする方法を説明します。検出技術の使用の詳細については、41 ページのセクション 4.1 「ネットワークデバイスの検出」を参照してください。

CSV ファイルから情報をインポートする場合、CSV フィールドを ZENworks データベースフィールドにマップします。少なくとも、CSV ファイルには、各デバイスの DNS 名または IP アドレスが含まれている必要があります。

CSV ファイルからデバイスをインポートするには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[展開] タブをクリックします。



- 2 左ナビゲーションパネルの「展開アクティビティ」リストで、「展開可能なデバイスのインポート」をクリックして、デバイスを CSV ファイルからインポートウィザードを起動します。

展開 > デバイスをCSVファイルからインポート

デバイスからCSVファイルにインポート

🔍 ステップ 1: インポートするファイルを選択

インポートするデバイスについてのアカウント情報が含まれている、コンマ区切りの値のファイルを選択します。

CSVファイル

参照...

- 3 次の表からの情報を使用してフィールドに入力し、ウィザードを完了します。

[ウィザード] ページ	詳細
[インポートするファイルを選択] ページ	インポートするデバイスを含む CSV ファイルを参照して選択します。少なくとも、CSV ファイルには、各デバイスの DNS 名または IP アドレスが含まれている必要があります。
インポートを設定	<p>CSV ファイルのカラムを ZENworks データベースのデバイスフィールドにマップします。少なくとも、CSV ファイルの DSN 名または IP アドレスを ZENworks データベースの「DNS 名フィールド」または「IP アドレス」フィールドにマッピングする必要があります。</p> <p>情報マッピングを作成するには、次の手順に従います。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 「追加」をクリックして、「インポートカラムの指定」ダイアログボックスを表示します。</li><li>2. 次のフィールドに入力します。 <b>フィールド:</b> CSV ファイルの列にマッピングするデバイスフィールドを選択します。 <b>列:</b> 選択フィールドにマッピングする列の番号を選択します。</li><li>3. 「OK」をクリックして、情報マッピングを作成して、リストに追加します。</li><li>4. フィールドが正しい列にマッピングされているか確認するには、「サンプルの表示」をクリックします。</li><li>5. 上記の手順を繰り返して、追加の情報マッピングを作成および検証します。</li></ol>

ウィザードが終了すると、「展開可能なデバイス」パネルのリストにデバイスが追加されます。

## 4.3 ZENworks Adaptive Agent のインストール

次のセクションでは、Web インストールまたは ZENworks コントロールセンター展開タスクを使用して ZENworks Adaptive Agent をデバイスにインストールする手順について説明します。

- ◆ 44 ページのセクション 4.3.1 「手動インストール」
- ◆ 45 ページのセクション 4.3.2 「ZENworks コントロールセンター展開タスク」

### 4.3.1 手動インストール

- 1 デバイスが必要な要件を満たしていることを確認します (『ZENworks 10 Configuration Management インストールガイド』の「管理対象デバイスの要件」を参照してください)。

- 2 ターゲットデバイス上で、Web ブラウザで次のアドレスを開きます。

<https://server/zenworks-setup>

server は ZENworks サーバの DNS 名または IP アドレスです。



Web ブラウザに Adaptive Agent の展開パッケージの一覧が表示されます。各アーキテクチャ (32 ビットおよび 64 ビット) 用に、2 種類のパッケージがあります。

**ネットワーク：**ネットワークパッケージは、Preagent だけをダウンロードし、目的のデバイスにインストールします。続いて、Preagent が ZENworks サーバから ZENworks Adaptive Agent をダウンロードしてインストールします。

**スタンドアロン：**スタンドアロンパッケージでは、Preagent と Adaptive Agent を目的のデバイスにダウンロードし、続いて Preagent がローカルデバイスから Adaptive Agent をインストールします。スタンドアロンパッケージは、ZENworks Adaptive Agent を現在ネットワークから接続解除されているデバイスにインストールする必要がある場合に便利です。パッケージをリムーバブルメディア (CD、USB フラッシュドライブなど) に保存し、スタンドアロンデバイスでメディアからパッケージを実行することができます。Adaptive Agent はデバイスにインストールされますが、デバイスがネットワークに接続されるまで登録および管理は行われません。

- 3 使用する展開パッケージの名前をクリックし、パッケージをデバイスのローカルドライブに保存するか、ZENworks サーバから実行します。
- 4 パッケージをダウンロードしたら、デバイスでパッケージを起動します。

パッケージをコマンドラインから起動する際にパッケージで利用できるオプションの詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management 検出、展開、およびリタイアメント』の「手動でのエージェントの展開」を参照してください。

- 5 インストールの完了時に、再起動するかどうかを尋ねるメッセージが表示されます。次のいずれかを行います。

- 何もしない。この場合、5 分後に自動的に再起動します。
- [キャンセル] をクリックする。後で再起動する必要があります。
- [OK] をクリックすると、すぐに再起動します。

デバイスは再起動するとき、管理ゾーンに登録され、ZENworks アイコンが通知領域 (システムトレイ) に配置されます。

ZENworks コントロールセンターでは、デバイスは [デバイス] ページの \Servers フォルダ構造または \Workstation フォルダ構造の下層に表示されます。

- 6 デバイスでの Adaptive Agent へのログインと使用の詳細については、[50 ページのセクション 4.4 「ZENworks Adaptive Agent の使用」](#)に進んでください。

### 4.3.2 ZENworks コントロールセンター展開タスク

展開タスクを使用して Adaptive Agent をインストールするには、目的のデバイスが ZENworks コントロールセンター内に表示されている必要があります。つまり、すでに [41 ページのセクション 4.1 「ネットワークデバイスの検出」](#) または [42 ページのセクション 4.2 「デバイスのインポート」](#) を完了していなければなりません。

展開タスクを作成するには、次の手順に従います。

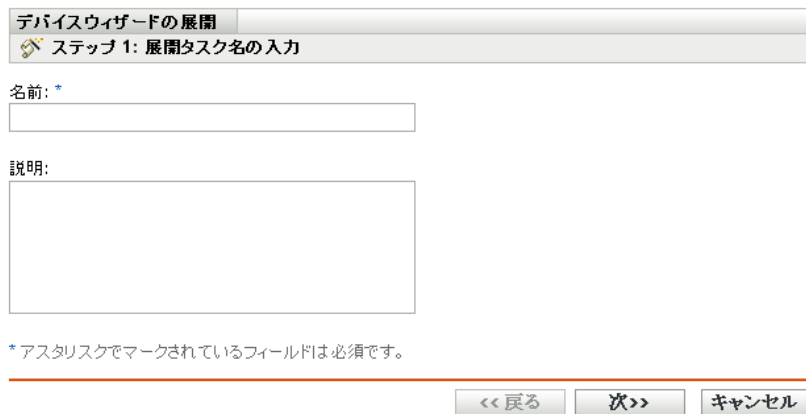
- 1 ZENworks コントロールセンターで、[展開] タブをクリックします。  
[展開可能なデバイス] パネルには、Adaptive Agent を展開するすべてのデバイス (インポート済みまたは検出済み) が一覧表示されます。



名前	IPアドレス	オペレーティングシステム	検出日	展開ステータス
<a href="#">192.168.9.240</a>	192.168.9.240	不明なOS	2008/08/05	エラー
<a href="#">192.168.9.241</a>	192.168.9.241	不明なOS	2008/08/05	エラー
<a href="#">rawhide.rawhide.sga</a>	192.168.9.1	不明なOS	2008/08/05	エラー
<a href="#">SYMCLIENT</a>	192.168.9.242	不明なOS	2008/08/05	エラー

- 2 [展開タスク] パネルで、[新規] をクリックして、デバイスの展開ウィザードを起動します。

[展開](#) > デバイスウィザードの展開



デバイスウィザードの展開

🔧 ステップ 1: 展開タスク名の入力

名前: \*

説明:

\* アスタリスクでマークされているフィールドは必須です。

<< 戻る    次 >>    キャンセル

- 3 次の表の情報をを使用してフィールドに入力し、ウィザードを完了します。


[ウィザード] ページ	詳細
[展開タスク名の入力] ページ	タスクの名前を指定します。名前には次の文字を使用することはできません。` \ * ? : " ' < >   ` % ~`
[デバイス] ページを選択します。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. [追加] をクリックして、[検出されたデバイスブラウザ] ダイアログボックスを表示します。 デフォルトビューには、管理ゾーンで検出されたすべてのデバイスが表示されます。</li> <li>2. デバイスを選択するには、➡ をクリックします。</li> <li>3. デバイスの選択が完了したら、[OK] をクリックして、[デバイスの選択] ページに戻ります。 選択したデバイスがリスト内に表示されます。</li> </ol>
[アカウント情報の入力] > [データストアするアカウント情報を保存] フィールドに進みます。	<p>[アカウント情報の入力] ページで、タスクに含まれているデバイスに Adaptive Agent を展開するときに必要なユーザ名およびパスワードを入力します。</p> <p>アカウント情報は、保存した場合を除きメモリにのみ格納されます。保存されたアカウント情報は、セキュリティを増すためにデータベース内で暗号化されます。</p> <p>保存されていないアカウント情報は、ZENworks サーバが再起動されるとメモリからクリアされます。スケジュール展開タスクを作成している場合、展開の実行時にアカウント情報が依然として有効であるように、アカウント情報を保存することができます。</p>
[アカウント情報] ページの [アカウント情報] を入力します。	<p>アカウント情報を追加するには、次の手順に従います。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. [追加] をクリックして [アカウント情報を入力] ダイアログボックスを表示します。[ユーザ名] フィールドに、適切なユーザ名を指定します。  Adaptive Agent を展開するには、ZENworks サーバが、デバイスの管理共有 (ADMIN\$) にドライブをマップできる必要があります。次のアカウント情報が必要です。 <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ <b>デバイスがドメインのメンバである場合</b>：ドメインまたはローカル管理者グループアカウント情報を使用できます。ローカルアカウント情報を使用する場合、ドメインアカウント情報と区別するため、ユーザ名を workstation_name\username として指定する必要があります。</li> <li>◆ <b>デバイスがドメインのメンバでない場合</b>：ローカル管理者グループアカウント情報を使用する必要があります。</li> </ul> </li> <li>2. [パスワード] および [パスワードの再入力] フィールドにユーザパスワードを入力します。</li> <li>3. [OK] をクリックしてアカウント情報を保存します。</li> </ol> <p>環境によっては、アカウント情報が、Adaptive Agent を展開するすべてのデバイスへのアクセス権を提供しない場合もあります。この場合、タスクに含まれているデバイスをカバーするために必要なだけアカウント情報を追加する必要があります。ZENworks サーバは、有効な最初のアカウント情報を使用します。</p>



[ウィザード] ページ	詳細
[スケジュールの選択] ページ	<p>[スケジュールの選択] ページでは、タスクを作成してすぐに実行するかどうか ( [今すぐ] オプション )、または後で実行するようにタスクのスケジュールを指定するかを選択できます。[スケジュール済み] を選択する場合は、次のいずれか 1 つのスケジュールを選択します。</p> <p><b>スケジュールなし</b> : スケジュールが設定されていないことを示します。タスクはスケジュールが設定されるか、手動で起動されるまで実行されません。これは、タスクを作成し、後でスケジュールを設定するか、手動でタスクを実行する場合に便利です。</p> <p><b>特定の日付</b> : タスクを実行する日付を 1 つまたは複数指定します。</p> <p><b>繰り返し</b> : タスクを実行する曜日、月の特定日、または固定の間隔を示します。</p> <p>スケジュールの詳細については、[ヘルプ] ボタンをクリックしてください。</p>
[プライマリサーバの選択] ページ > [プライマリサーバ] フィールド	展開タスクを実行する ZENworks サーバを選択します。
[Windows プロキシの選択] ページ > [Windows プライマリサーバの Windows プロキシを使用] フィールド	<p>このオプションは、Windows プライマリサーバの代わりに Windows プロキシを使用して展開タスクを実行する場合に選択します。</p> <p>Windows プロキシは次のものの代わりに使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ Windows 固有のディカバリおよび展開タスクを実行できない Linux プライマリサーバ</li> <li>◆ Windows 固有のディカバリおよび展開タスクを実行できない Linux プライマリサーバ</li> </ul> <p>検出または展開するデバイスがプライマリサーバ以外のサブネットにある場合の Windows サーバ。</p>
	<p><b>注</b> : このオプションは、[プライマリサーバの選択] ページで Windows プライマリサーバが選択されている場合のみ表示されます。</p>
	<p>展開については、Windows ファイアウォール構成設定で <b>ファイルとプリンタの共有</b> を例外として追加する必要があります。デフォルトでは、例外の範囲はローカルサブネットにのみ適用されます。ターゲットデバイスが、展開が実行されているプライマリサーバとは別のサブネットにある場合、プライマリサーバの IP アドレスを例外として追加する必要があります。ただし、Windows プロキシをターゲットデバイスと同じサブネットで使用している場合は、Windows ファイアウォール例外の範囲を変更する必要はありません。</p>

[ウィザード] ページ	詳細
[Windows プロキシの選択] ページ > [ゾーン Windows プロキシ設定を無効にします] フィールド	<p>管理ゾーンで設定した Windows プロキシ設定を無効にすることを 選択します。</p> <p>タスクで設定を構成する場合は、設定を変更する前に [ゾーン Windows プロキシ設定を無効にします] を選択する必要があります。</p> <p>[Windows プロキシ設定] パネルでは、ゾーン内にある管理対象の Windows デバイスが ZENworks サーバの代わりに検出と展開タス クを実行するように指定できます。主に Linux 上で動作する ZENworks サーバで、WMI や WinAPI などの Windows 特有の検出 技術を使用する検出タスク、および管理対象の Windows デバイス を使用する展開タスクを使用しなくてすむように、このような設 計となっています。</p> <p>ZENworks サーバと Windows プロキシ間でやりとりされる検出の アカウント情報などの情報を保護するために、SSL を使用したセ キュアな接続が採用されています。</p> <p><b>Windows プロキシ:</b> Linux ベースの ZENworks サーバの代わりに 検出と展開タスクを実行させる管理対象の Windows デバイス (  サーバまたはワークステーション ) を選択します。</p> <p><b>Windows プロキシタイムアウト:</b> ZENworks サーバが Windows プ ロキシからの応答を待機する時間を秒数で指定します。指定され たタイムアウト期間後に受信した応答は破棄されます。</p>
[一般オプション] ページ > [展開パッケージ] フィールド	<p>管理対象デバイスのプロセッサアーキテクチャに応じて、 ZENworks Adaptive Agent をデバイスにインストールするために使 用する展開パッケージを選択します。</p> <p>デバイスのプロセッサアーキテクチャがわからない場合は、ター ゲットアーキテクチャが含まれるパッケージを [すべて] として 選択すると、32 ビットプラットフォームにも 64 ビットプラッ トフォームにも適用されます。選択したパッケージがプライマリ サーバから削除されている場合は、デフォルトの展開パッケージ が展開されます。</p>
[一般オプション] ページ > [エージェントインストールフォルダの指定] フィールド	<p>ZENworks Adaptive Agent をインストールする管理対象デバイスの ディレクトリを指定します。管理対象デバイスに変数が設定され ていない場合、デフォルトでは、エージェントは %ZENWORKS_HOME% システム環境変数で指定したディレクト リまたは %ProgramFiles%\novell\zenworks ディレクトリにインス トールされます。</p> <p>インストールパスにスペースが含まれていないことを確認してく ださい。</p> <hr/> <p><b>注:</b> 指定したディレクトリが作成されない場合、エージェントはデ フォルトのロケーションにインストールされます。</p>



[ウィザード] ページ	詳細
[一般オプション] ページ > 再起動オプション	<p>ZENworks Adaptive Agent のインストール後は、デバイスを再起動して Adaptive Agent が機能するようにする必要があります。次を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 目的の再起動オプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ <b>即時</b> : Adaptive Agent のインストール後ただちにデバイスを強制的に再起動するには、[<b>即時</b>] を選択します。</li> <li>◆ <b>手動</b> : ユーザが任意のタイミングで手動でデバイスを再起動できるようにするには、[<b>手動</b>] を選択します。</li> <li>◆ <b>スケジュール済み</b> : 指定した時間に再起動するには、[<b>スケジュール済み</b>] を選択します。スケジュールのフィールドに入力します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ <b>開始日</b> :  をクリックして、イベントの日付選択に使用できるカレンダーを表示します。</li> <li>◆ <b>開始時刻</b> : イベントを開始する時刻を指定します。</li> <li>◆ <b>協定世界時 (UTC) を使用</b> : 開始時刻が協定世界時 (UTC) に変換されます。入力した開始時刻はすでに協定世界時なので、変換の必要がないことを示すには、このオプションを選択します。たとえば、東部時間帯いるとします。午前 10 時と入力して、このオプションを選択すると、開始時刻は 10:00 UTC にスケジュールされます。このオプションを選択しない場合、東部時間は UTC - 4 時間なので、開始時刻は 14:00 UTC にスケジュールされます。</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>2. (オプション) 再起動のプロンプトを表示しない場合は、[再起動のプロンプトを表示しない] オプションを選択します。</li> </ol>
[登録キーの追加] ページ	<p>(オプション) 展開プロセスの登録部分の実行中に使用する登録キーを選択します。登録キーは、登録中にデバイスが割り当てられるフォルダおよびグループに関する情報を提供します。登録キーの選択はオプションです。選択しない場合、登録ルールは、フォルダおよびグループの割り当ての決定に使用されます。サーバまたはワークステーションに展開するには、それぞれサーバ登録キーまたはワークステーション登録キーを選択します。</p> <p>登録キーおよびルールの詳細については、<a href="#">26 ページのセクション 3.2 「デバイスを登録する」</a> を参照してください。</p>
[展開前 / 後] ページ	<p>(オプション) Adaptive Agent がデバイスにインストールされる前後に実行するコマンドを指定します。たとえば、オペレーティングシステムコマンドを実行、スクリプトを実行、実行プログラム起動できます。</p> <p>コマンドは、展開タスクパッケージの一部としてプレエージェン트에渡されます。プレエージェン特では、システム領域でコマンドが実行されるので、ユーザの相互作用を必要としないコマンドを指定する必要があります。</p> <p>展開前コマンドと展開後コマンドの詳細については、[ヘルプ] ボタンをクリックしてください。</p>

- 4 ログインおよび Adaptive Agent の使用の詳細については、次のセクション、「[ZENworks Adaptive Agent の使用](#)」に進んでください。

zman ユーティリティで deployment-task-create コマンドを使用して展開タスクを作成することもできます。詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management コマンドライン ユーティリティリファレンス』の「展開コマンド」を参照してください。

## 4.4 ZENworks Adaptive Agent の使用

次のセクションでは、ログインおよび ZENworks Adaptive Agent の使用に役立つ情報を提供します。

- ◆ 50 ページのセクション 4.4.1 「管理ゾーンへのログイン」
- ◆ 50 ページのセクション 4.4.2 「Adaptive Agent ビューのナビゲート」
- ◆ 54 ページのセクション 4.4.3 「Adaptive Agent 機能の有効化 / 無効化」

### 4.4.1 管理ゾーンへのログイン

管理対象デバイスでオペレーティングシステムを起動するときに、Adaptive Agent が起動されて、デバイスに割り当てられているすべてのバンドルおよびポリシーが使用可能になります。ユーザに割り当てられているバンドルおよびポリシーを使用可能にするためには、ユーザは管理ゾーンにログインする必要があります。

Adaptive Agent は Windows ログインまたは Novell ログインクライアントと統合し、ユーザにシングルログインを提供します。ユーザが Windows または Novell クライアントで eDirectory または Active Directory のアカウント情報を入力した場合、ユーザのアカウント情報が ZENworks ユーザソースのものと一致すると、管理ゾーンにログインします。一致しない場合、別の Adaptive Agent ログイン画面が表示され、ユーザに正しいアカウント情報を入力するよう求めます。

たとえば、あるユーザが 2 つのディレクトリツリー Tree1 と Tree2 でアカウントを持っているとします。Tree1 は、管理ゾーンのユーザソースとして定義されていますが、Tree2 は定義されていません。そのユーザが Tree1 にログインすると、自動的に管理ゾーンにログインします。一方、そのユーザが Tree2 にログインした場合は、Adaptive Agent のログイン画面が表示され、Tree1 のアカウント情報を入力するよう求められます。

### 4.4.2 Adaptive Agent ビューのナビゲート

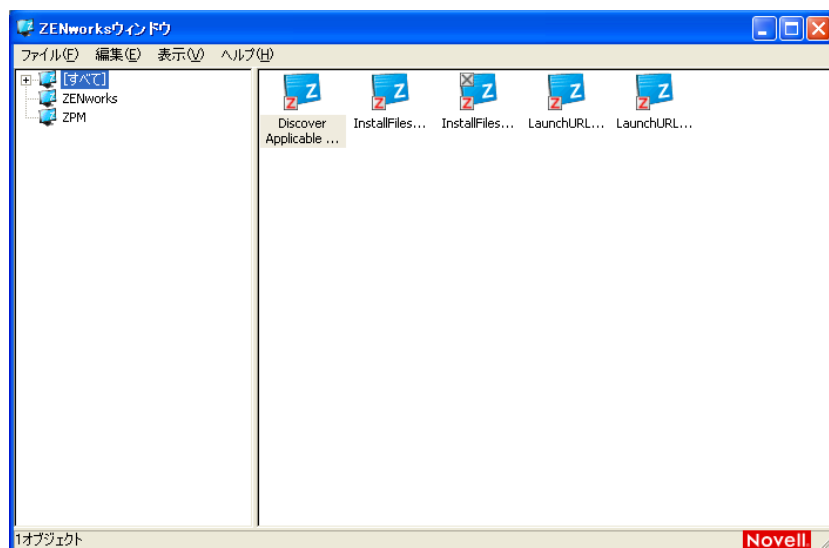
Adaptive Agent には、次の 3 つのビューがあります。

- ◆ 50 ページの 「ZENworks Window」
- ◆ 51 ページの 「ZENworks Explorer」
- ◆ 52 ページの 「ZENworks アイコン」

#### ZENworks Window

ZENworks Window は、バンドルへのアクセスを提供するスタンドアロンのウィンドウです。このウィンドウは [スタート] メニューから起動します ( [スタート] メニュー > [プログラム] > [Novell ZENworks] > [ZENworks Window] )。

図 4-1 ZENworks Window



「ZENworks ウィンドウ」の左ペインには、次の項目が表示されます。

- ◆ **「すべて」フォルダ**：バンドルが配置されているフォルダにかかわらず、配布されているバンドルすべてが表示されます。
- ◆ **「ZENworks」フォルダ**：別のフォルダに割り当てられていないバンドルすべてが表示されます。バンドルのデフォルトフォルダは「ZENworks」フォルダです。ただし、管理者はバンドルを整理するために追加フォルダを作成したり、ZENworks フォルダを名前変更したりすることもできます。

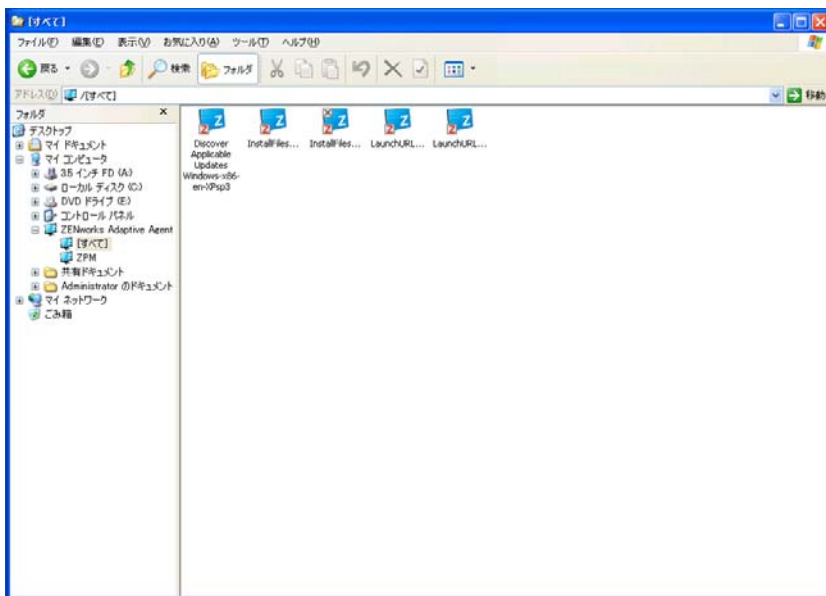
左ペインでフォルダを選択すると、右ペインにフォルダ内に含まれるバンドルが表示されます。次の操作を行うことができます。

- ◆ バンドルをインストールするか、すでにインストール済みのアプリケーションを起動する。
- ◆ バンドルのプロパティを表示する。プロパティには、バンドルの説明、バンドルのヘルプ担当者についての情報、バンドルを使用できる時間、バンドルに設定されたシステム要件などが含まれます。
- ◆ インストールしたアプリケーションを修復する。
- ◆ アプリケーションをアンインストールする。これは管理者が制御する機能で、有効になっていない場合もあります。

## ZENworks Explorer

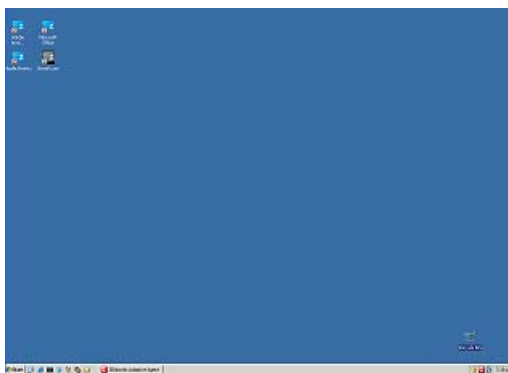
ZENworks Explorer は、Windows エクスプローラ用の拡張機能で、Windows エクスプローラ、デスクトップ、[スタート] メニュー、[クイック起動] ツールバー、および通知領域 (システムトレイ) にバンドルを表示できるようになります。次の図は、Windows エクスプローラに表示されるバンドルを示しています。

図 4-2 ZENworks Explorer - Windows エクスプローラ用ビュー



次の図は、デスクトップに表示されるバンドルを示しています。

図 4-3 ZENworks Explorer - Windows デスクトップ用ビュー



ZENworks Explorer でも、[ZENworks ウィンドウ] と同じタスクをバンドルに対して実行できます。

## ZENworks アイコン


ZENworks アイコン  は、Windows の (システムトレイ) にあります。.. アイコンをダブルクリックすると、ZENworks Adaptive Agent のプロパティを表示できます。

図 4-4 ZENworks Adaptive Agent プロパティ



プロパティウィンドウの左側のナビゲーション画面には、Adaptive Agent のステータスおよび各機能のリンクが含まれています。

- ◆ **ステータス** : エージェントが前回 ZENworks サーバに接続した時間や、Agent 機能が実行中であるかどうかなどの情報が表示されます。
- ◆ **ポリシー** : デバイスおよびログインユーザに割り当てられているポリシーが表示されます。また、ポリシーが有効であるのかも表示されます。
- ◆ **バンドル** : デバイスおよびログインユーザに割り当てられているバンドルが表示されます。また、各バンドルの現在のインストールステータス ( 使用可能、ダウンロード中、インストール中など ) およびバンドルが有効 ( デバイスが配布の要件を満たしている ) のかも表示されます。
- ◆ **インベントリ** : デバイスのインベントリ情報が表示されます。ハードドライブ、ディスクドライブ、ビデオカードの製造元やモデルなどのハードウェアの詳細を表示できます。また、インストール済み Windows ホットフィックスとパッチ、およびインストール済みソフトウェア製品のバージョン番号と場所などのソフトウェアの詳細も表示できます。
- ◆ **リモート管理** : 現在接続しているリモートオペレータおよびデバイスで有効になっているリモート管理ポリシーの設定に関する情報が表示されます。また、管理セッションを開始したり、セッションのセキュリティ設定を制御したりすることもできます。
- ◆ **サテライト** : **サテライト** として使用するデバイスのサテライト役割情報を表示します。サテライト役割には、収集、コンテンツ、およびイメージングなどがあります。この機能は、ZENworks 管理者がデバイスをサテライトとして使用している場合にのみ表示されます。

- ◆ **ログ**: ログファイルの場所、エージェントのログファイルがアップロードされる ZENworks サーバ、および次回ログのアップロードが予定されているスケジュールなど、Adaptive Agent のログファイルに関する情報が表示されます。また、記録されたメッセージの重大度レベルを決めることもできます。
- ◆ **Windows プロキシ** デバイスが ZENworks プライマリサーバの Windows プロキシとして機能するときに、デバイスで実行したディスカバリアクティビティおよび展開アクティビティの結果を表示します。

### 4.4.3 Adaptive Agent 機能の有効化 / 無効化

Adaptive Agent には、次の 8 つの機能があります。

- ◆ Asset Management
- ◆ バンドル管理
- ◆ イメージ管理
- ◆ インベントリ管理 (Inventory Management)
- ◆ Patch Management
- ◆ ポリシー管理
- ◆ リモート管理
- ◆ ユーザ管理

デフォルトで、すべての機能がデバイスにインストールされ、有効になります。

次のセクションではそれらの手順について説明します。

- ◆ 54 ページの「エージェント機能のカスタマイズ」
- ◆ 56 ページの「コンテンツ役割の有効化」
- ◆ 57 ページの「コレクション役割の有効化」
- ◆ 57 ページの「イメージング役割の有効化」

#### エージェント機能のカスタマイズ

ZENworks Adaptive Agent を管理ゾーンレベルで選択された機能とともに展開します。管理ゾーンレベルで選択された機能は、ライセンスの期限が切れたか非アクティブ化された製品に属する場合のみ、インストールされません。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。

環境設定	登録	システム情報	アセットインベントリ	アセット管理	システム更新
管理ゾーンの設定					
コンテンツ					
デバイス管理					
カテゴリ	説明				
<a href="#">ローカルデバイスのログ</a>	管理対象デバイスが遭遇した警告およびエラーのローカルログを有効にして設定します。				
<a href="#">デバイスの更新スケジュール</a>	デバイスの更新間隔を設定します。				
<a href="#">ZENworksエージェント</a>	ZENworksエージェントを設定します。				
<a href="#">登録</a>	登録設定を構成します。				
<a href="#">ZENworks Explorer設定</a>	管理対象デバイス上でのZENworks Explorerの動作を設定します。				
<a href="#">システム変数</a>	システム変数を設定します。				
<a href="#">起動前サービス</a>	プレブートサービスを設定します。				
<a href="#">プライマリユーザ</a>	プライマリユーザの決定方法の設定を構成します。				
<a href="#">プライマリワークステーション</a>	プライマリワークステーションの決定方法の設定を構成します。				
<a href="#">ダイナミックグループの更新スケジュール</a>	ダイナミックグループの更新スケジュールを設定します。				
<a href="#">Wake-on-LAN</a>	Wake-on-LAN設定を構成します。				
<a href="#">リモート管理</a>	リモート管理を有効にして設定します。				
ディスクカバリと展開					
イベントとメッセージング					
インフラ管理					
インベントリ					
レポートングサービス					
アセット管理					
パッチ管理					

## 2 [管理ゾーンの設定] パネルで、[デバイス管理] をクリックし、次に [ZENworks Agent] をクリックします。

ZENworksエージェント	
ZENworksエージェントを設定します。	
<b>全般</b>	
<input checked="" type="checkbox"/> ユーザにエージェントのアンインストールを許可します	
キャッシュ 保持期間:	336 時間
キャッシュ オフラインのしきい値:	90 日
ビジー状態のサーバに対する要求再試行回数:	20
再試行要求の初回待機時間(以降の各要求は1秒ずつ増加):	10 秒
再試行要求の最大待機時間:	20 秒
<b>エージェント機能</b>	
バンドル管理	<input checked="" type="checkbox"/> インストール済み <input checked="" type="radio"/> 使用可能 <input type="radio"/> 使用不可
ポリシー管理	<input checked="" type="checkbox"/> インストール済み <input checked="" type="radio"/> 使用可能 <input type="radio"/> 使用不可
アセット管理	<input checked="" type="checkbox"/> インストール済み <input checked="" type="radio"/> 使用可能 <input type="radio"/> 使用不可
イメージ管理	<input checked="" type="checkbox"/> インストール済み <input checked="" type="radio"/> 使用可能 <input type="radio"/> 使用不可
パッチ管理	<input checked="" type="checkbox"/> インストール済み <input checked="" type="radio"/> 使用可能 <input type="radio"/> 使用不可
リモート管理	<input checked="" type="checkbox"/> インストール済み <input checked="" type="radio"/> 使用可能 <input type="radio"/> 使用不可
ユーザ管理	<input checked="" type="checkbox"/> インストール済み <input checked="" type="radio"/> 使用可能 <input type="radio"/> 使用不可
再起動動作の選択(必要な場合):	
<input checked="" type="radio"/> ユーザに再起動を求める(デフォルト) <input type="radio"/> デバイスを再起動しない <input type="radio"/> 強制的にデバイスを再起動	
<input type="button" value="OK"/> <input type="button" value="適用"/> <input type="button" value="リセット"/> <input type="button" value="キャンセル"/>	

### 3 エージェント機能パネル:

- ◆ インストールしたくない機能がある場合は、その機能の横の「インストール済み」の選択を解除します。選択した機能は、デバイスにインストールされません。すべての機能の選択解除を選択した場合は、コアエージェントだけがインストールされます。
- ◆ インストールするが無効にしたい機能がある場合は、その機能の「インストール済み」と「無効」を選択します。無効にした機能は、現在の管理対象デバイスからアンインストールされません。機能はデバイスにインストールされますが、機能しません。

バンドル管理、リモート管理、またはユーザ管理機能をインストールするには、デバイスの再起動が必要です。イメージ管理機能をインストールする際、Windows 2008 および Windows Vista の場合にのみ再起動が必要です。選択した再起動オプションに基づいて、デバイスの再起動を求められます。


### 4 変更内容を保存するには、「適用」をクリックします。

## コンテンツ役割の有効化

任意の管理対象デバイス（プライマリサーバを除く）をコンテンツ役割を持つサテライトに昇格できます。コンテンツ役割を持つサテライトは、ZENworks プライマリサーバと同様のコンテンツ配信サービスを提供しますが、ZENworks Adaptive Agent と共にインストールされている機能のみを必要とします。この機能は、管理デバイスをコンテンツ役割が有効化されたサテライトサーバに昇格するまで有効になりません。

コンテンツ役割の詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management システム管理リファレンス』の「コンテンツ役割の理解」を参照してください。

コンテンツ役割機能を有効にするには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、「環境設定」タブをクリックします。
- 2 「サーバの階層」パネルで、新しいサテライトの親コンテンツサーバとしての役割を果たすプライマリサーバを選択します。  
サテライトは、その親プライマリサーバからのみコンテンツをダウンロードします。したがって、サテライトでホストされるコンテンツは、親プライマリサーバでもホストされる必要があります。
- 3 必要に応じて、デフォルトのポート番号 (80) を、コンテンツ複製の HTTP 要求に使用したいデバイスのポート番号に変更します。
- 4 「デバイス」フィールドで、 をクリックして、目的のデバイスを参照し、選択します。
- 5 「サテライトサーバ役割」セクションで、「コンテンツ」のチェックボックスをオンにしてその役割を有効にします。
- 6 「コンテンツレプリケーションスケジュール」セクションで、サテライトがその親プライマリサーバからコンテンツを受け取る頻度を選択します。
- 7 「OK」をクリックして、選択したデバイスをサテライトに昇格させます。

「サーバの階層」パネルに、新しいサテライトがプライマリサーバの子として追加されます。

サテライトに複製されたコンテンツの制御に関する詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management システム管理リファレンス』の「コンテンツの複製」を参照してください。




## コレクション役割の有効化

任意の管理対象デバイス (プライマリサーバを除く) をコレクション役割を持つサテライトに昇格できます。サテライトは、ZENworks プライマリサーバと同様のコレクションサービスを提供しますが、ZENworks Adaptive Agent と共にインストールされているコレクション役割機能でのみ必要になります。

この機能は、管理デバイスをコレクション役割が有効化されたサテライトサーバに昇格するまで有効になりません。

コレクション役割の詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management システム管理リファレンス』の「[コレクション役割の理解](#)」を参照してください。

コレクション役割機能を有効にするには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。
- 2 [サーバの階層] パネルで、新しいサテライトの親コレクションサーバとしての役割を果たすプライマリサーバを選択します。  
サテライトは、収集した情報をその親プライマリサーバにのみアップロードします。
- 3 [アクション] > [サテライトサーバの追加] の順にクリックして、新しいサテライトの追加および設定を行うダイアログボックスを表示します。
- 4 必要に応じて、デフォルトのポート番号 (80) を、コンテンツ複製の HTTP 要求に使用したいデバイスのポート番号に変更します。
- 5 [デバイス] フィールドで、 をクリックして、目的のデバイスを参照し、選択します。
- 6 [サテライト役割] セクションで、[コレクション] のチェックボックスをオンにしてその役割を有効にします。
- 7 [コレクションロールアップスケジュール] セクションで、管理対象デバイスがコレクション情報をロールアップする頻度を選択します。
- 8 [OK] をクリックして、選択したデバイスをサテライトに昇格させます。  
[サーバの階層] パネルに、新しいサテライトがプライマリサーバの子として追加されます。

## イメージング役割の有効化

任意の管理対象デバイス (プライマリサーバを除く) をイメージング役割を持つサテライトに昇格できます。サテライトは、ZENworks プライマリサーバと同様のイメージングサービスを提供しますが、ZENworks Adaptive Agent と共にインストールされているイメージング役割機能でのみ必要になります。



この機能は、管理デバイスをイメージング役割が有効化されたサテライトサーバに昇格するまで有効になりません。

イメージング役割の詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management システム管理リファレンス』の「[イメージング役割の理解](#)」を参照してください。

イメージング役割機能を有効にするには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。
- 2 [サーバの階層] パネルで、新しいサテライトの親イメージングサーバとしての役割を果たすプライマリサーバを選択します。

サテライトは、収集した情報をその親プライマリサーバにのみアップロードします。

- 3 [アクション] > [サテライトサーバの追加] の順にクリックして、新しいサテライトの追加および設定を行うダイアログボックスを表示します。
- 4 必要に応じて、デフォルトのポート番号 (80) を、コンテンツ複製の HTTP 要求に使用したいデバイスのポート番号に変更します。
- 5 [デバイス] フィールドで、 をクリックして、目的のデバイスを参照し、選択します。
- 6 [サテライトサーバ役割] セクションで、[イメージング] のチェックボックスをオンにしてその役割を有効にします。
- 7 [イメージング] セクションで、次の設定を行います。
  - ◆ **PXE サービスの有効化**：このオプションは、イメージングサーバの役割が割り当てられているデバイスでプロキシ DHCP サービスを自動的に開始します。  
**イメージング役割が削除されると、サーバからイメージファイルを削除します**：  
このオプションは、イメージング役割が削除された場合、デバイスに保存されている ZENworks イメージファイルを削除します。
- 8 [OK] をクリックして、選択したデバイスをサテライトに昇格させます。  
[サーバの階層] パネルに、新しいサテライトがプライマリサーバの子として追加されます。
- 9 (条件付き) イメージング役割を設定すると、役割は直ちにデバイスに追加されます。役割がすぐに追加されない場合、次のデバイス更新スケジュールの時点でのみ追加されます。ただし、デバイスにすぐに役割を追加したい場合は、次のいずれかの方法で手動でデバイスを更新する必要があります。
  - ◆ [環境設定] タブ > [サーバの階層] で、更新するデバイスの前のチェックボックスをオンにして、[アクション] > [デバイスの更新] の順にクリックします。
  - ◆ Windows 管理対象デバイスで、 アイコンを右クリックし、次に [更新] をクリックします。
  - ◆ 管理されていない Linux デバイスで、ターミナルを開き、現在の作業ディレクトリを /opt/novell/zenworks/bin/ に変更してから、/zac ref を実行します。

プロキシ DHCP サービスがデバイスで起動されているかどうか確認するには、デバイスのメッセージログを確認します ( [デバイス] タブ > [Workstations] フォルダの順に選択し、ワークステーションをクリックして [概要] > [メッセージログ] パネルを選択、または [デバイス] タブ > [サーバ] フォルダの順に選択し、サーバをクリックして [概要] > [メッセージログ] パネルを選択 )。

ローカルファイルの重大度レベルおよびシステムログが [ローカルデバイスのログ] ページで [情報とそれ以上] に設定されている場合にのみ、メッセージは [ローカルデバイスのログ] ページにログされます。( [環境設定] タブ、[デバイス管理]、[ローカルデバイスのログ] )。

管理ゾーンを設定して ZENworks® Adaptive Agent をデバイスに展開したら、デバイスの管理を開始する準備が整ったことになります。

次のセクションでは、これらの管理タスクの説明と手順について説明します。使用を計画している環境と ZENworks Configuration Management 機能によって、すべてのタスクを実行する方法を知っておくことが必要になる場合があります。学習対象は、任意の順序でレビューできます。

- ◆ 59 ページのセクション 5.1 「ソフトウェアの配布」
- ◆ 61 ページのセクション 5.2 「ポリシーの適用」
- ◆ 63 ページのセクション 5.3 「ソフトウェアインベントリおよびハードウェアインベントリの収集」
- ◆ 65 ページのセクション 5.4 「デバイスのイメージング」
- ◆ 73 ページのセクション 5.5 「デバイスのリモート管理」
- ◆ 81 ページのセクション 5.6 「ソフトウェアのパッチ適用」
- ◆ 84 ページのセクション 5.7 「ライセンスコンプライアンスの監視」
- ◆ 87 ページのセクション 5.8 「デバイスのリタイアまたはリタイア解除」

## 5.1 ソフトウェアの配布

ZENworks Configuration Management はソフトウェアの配布に高い柔軟性を提供します。アプリケーションおよび個別ファイルの配布、または単にデバイス上の既存のファイルへの変更を行うことができます。

ソフトウェアはバンドルを使用して配布されます。バンドルは、すべてのファイル、構成設定、インストール指示などから構成され、デバイス上のアプリケーションまたはファイルを展開および管理する必要があります。作成できるバンドルには 4 つのタイプがあります。

- ◆ **ディレクティブバンドル**：1 つまたは複数のアクションをデバイスで実行します。たとえば、ディレクティブバンドルを使用して、Windows INI ファイルまたはテキストファイルを編集できます。スクリプトの実行、サービスの開始または停止、ファイルの削除ができます。さらに、このバンドルには他のさまざまなアクション、特にパーソナリティの保存やパーソナリティの適用などのパーソナリティアクションの作成が含まれます。これらのパーソナリティアクションを使用して、システム設定やアプリケーション設定などのパーソナリティをマイグレートできます。
- ◆ **ファイルバンドル**：ファイルまたはディレクトリをデバイスにコピーまたはインストールします。たとえば、「ファイル」バンドルを使用して、設定ファイルまたはデータファイルを含めることができます。「ファイル」バンドルは、Windows バンドルの一部ではないファイルを配布するのに便利です。
- ◆ **イメージングバンドル**：オペレーティングシステムのブート前に操作を実行します。さまざまなイメージングバンドルのタイプを使用して、1 つまたは複数のデバイスにイメージをインストールしたり、イメージングバッシュプロンプトから発行できるコマンドが含まれている ZENworks スクリプトを実行できます。

- ◆ **Windows バンドル** : Microsoft Windows Installer (MSI) パッケージ、Microsoft Windows Software Patch (MSP) パッケージ、シンククライアントアプリケーション、またはその他の Windows ベースのアプリケーションを、Windows デバイスに配布します。

バンドルに含まれているソフトウェアは、ZENworks サーバリポジトリにアップロードされます。これにより、ZENworks サーバおよび ZENworks Adaptive Agent が、他のネットワーク場所にアクセスする必要なくソフトウェアを配布することができます。

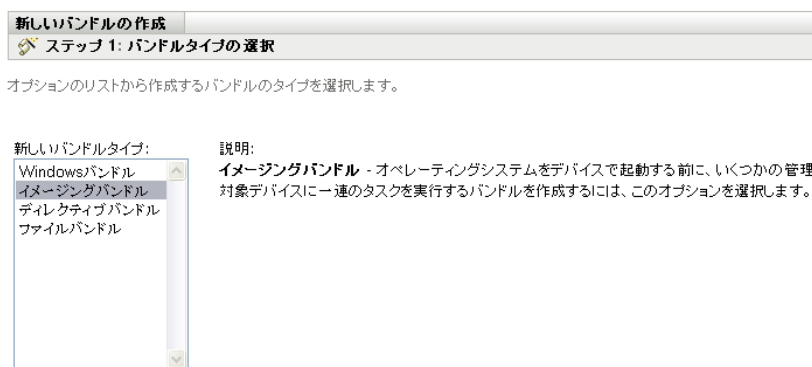
ソフトウェアバンドルを作成するには、新しいバンドルの作成ウィザードを使用します。バンドルの作成の手助けに加えて、ウィザードでは、デバイスおよびユーザへの割り当てと配布、起動および可用性スケジュールの作成を行うことができます。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[バンドル] タブをクリックします。



- 2 [バンドル] パネルで、[新規作成] > [バンドル] の順にクリックして新規バンドルの作成ウィザードを起動します。

[バンドル](#) > [新しいバンドルの作成](#)



- 3 プロンプトに従って、バンドルの作成、割り当て、およびスケジュールを行います。

ウィザードの各ページで [ヘルプ] ボタンをクリックすると、そのページの詳細情報が表示されます。

ウィザードを完了すると、バンドルが [バンドル] パネルに追加されます。バンドルをクリックすると、バンドルの詳細の表示および割り当ての変更、スケジュールなどを行うことができます。

zman ユーティリティで `bundle-create` コマンドを使用してソフトウェアバンドルを作成することもできます。詳細については、『*ZENworks 10 Configuration Management コマンドラインユーティリティリファレンス*』の「バンドルコマンド」を参照してください。

ソフトウェア配布の詳細については、『*ZENworks 10 Configuration Management ソフトウェア配布リファレンス*』を参照してください。

## 5.2 ポリシーの適用

ポリシーを使用すると、デバイスの動作を制御できます。作成できるポリシーには 9 つのタイプがあります。

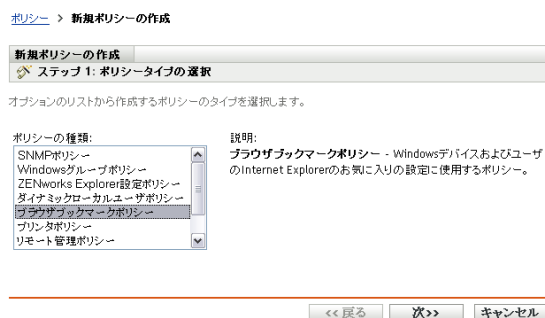
- **ブラウザブックマークポリシー**：Windows デバイスおよびユーザに対して Internet Explorer のお気に入りを設定します。
- **ダイナミックローカルユーザポリシー**：Windows NT\*、Windows 2000、Windows XP ワークステーション、および Windows 2000 と Windows 2003 ターミナルサーバで作成されたユーザを設定します。この設定は、ユーザが Novell® eDirectory™ に正常に認証された後で行います。
- **ローカルファイル権利ポリシー**：NTFS ファイルシステムにあるファイルまたはフォルダの権利を設定します。  
このポリシーは、ローカルとドメインのユーザおよびグループに対する基本的な許可および詳細な許可を設定するために使用できます。これにより、管理者が管理対象デバイスにカスタムグループを作成することができます。
- **プリンタポリシー**：ローカル、SMB、HTTP、および iPrint プリンタを Windows デバイスおよびユーザ向けに設定します。
- **リモート管理ポリシー**：管理対象デバイスのリモート管理セッションの動作または実行を設定します。ポリシーには、リモート管理操作、セキュリティなどのプロパティが含まれます。リモート管理ポリシーは、ユーザと管理対象デバイスに割り当てることができます。
- **ローミングプロファイルポリシー**：ユーザが自分のプロファイルを保存するパスを設定できます。  
ユーザプロファイルには、セッション間で維持されるユーザのデスクトップ設定、および個人の環境設定に関する情報が含まれます。  
ネットワークパスに保存されているユーザプロファイルは、ローミングプロファイルと呼びます。ユーザがマシンにログオンするたびに、ユーザのプロファイルがネットワークパスからロードされます。これにより、ユーザはマシンを移動しても、常に自分の設定を使用することができます。
- **SNMP ポリシー**：管理対象デバイスに SNMP パラメータを設定します。
- **Windows グループポリシー**：グループポリシーを Windows デバイスおよびユーザ向けに設定します。
- **ZENworks Explorer の環境設定ポリシー**：ZENworks Explorer の動作および機能を集中管理できるようにします。

ポリシーを作成するには、新規ポリシーの作成ウィザードを使用します。ポリシーの作成の手助けに加えて、ウィザードでは、デバイスおよびユーザへの割り当てと、ポリシーを直ちに実施するかまたはデバイスが情報を更新するまで待機するかどうかの決定を行うことができます。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[ポリシー] タブをクリックします。



- 2 [ポリシー] パネルで、[新規] > [ポリシー] の順にクリックして、新規ポリシーの作成ウィザードを起動します。



- 3 プロンプトに従って、ポリシーの作成、割り当て、およびスケジュールを行います。  
ウィザードの各ページで [ヘルプ] ボタンをクリックすると、そのページの詳細情報が表示されます。  
ウィザードを完了すると、ポリシーが [ポリシー] パネルに追加されます。ポリシーをクリックしてポリシーの詳細を表示し、割り当てを修正できます。

zman ユーティリティで `policy-create` コマンドを使用してポリシーを作成することもできます。詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management コマンドラインユーティリティリファレンス』の「ポリシーコマンド」を参照してください。

ポリシーの適用の詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management ポリシー管理リファレンス』を参照してください。



## 5.3 ソフトウェアインベントリおよびハードウェアインベントリの収集

ZENworks Configuration Management を使用して、デバイスからソフトウェアおよびハードウェアの情報を収集できます。個々のデバイスのインベントリを表示し、特定の基準に基づいてインベントリレポートを生成できます。

たとえば、特定のプロセッサ、メモリ、およびディスク容量要件を持つソフトウェアアプリケーションを配布したい場合があります。1 つは要件を満たすすべてのデバイスを一覧表示し、1 つは要件を満たさないデバイスを一覧表示した 2 つのレポートを作成します。レポートに基づいて、ソフトウェアを準拠デバイスに配布し、非準拠デバイスにアップグレード計画を作成します。

デフォルトでは、デバイスは毎月 1 日の AM1:00 に自動的にスキャンされます。スケジュールおよびその他の多くの「インベントリ」環境設定を ZENworks コントロールセンター「環境設定」タブで変更することができます。

- ◆ 63 ページのセクション 5.3.1 「デバイススキャンの開始」
- ◆ 64 ページのセクション 5.3.2 「デバイスインベントリの表示」
- ◆ 64 ページのセクション 5.3.3 「インベントリレポートの生成」
- ◆ 65 ページのセクション 5.3.4 「詳細の参照場所」

### 5.3.1 デバイススキャンの開始

デバイスのスキャンはいつでも開始できます。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、「デバイス」タブをクリックします。
- 2 スキャンするデバイスが見つかるまでサーバまたはワークステーションフォルダをナビゲートします。
- 3 デバイスをクリックして詳細を表示します。



- 4 左ナビゲーションパネルにあるタスクリストで、[サーバインベントリスキャン] または [ワークステーションインベントリスキャン] をクリックしてスキャンを開始します。

[クイックタスクステータス] ダイアログボックスにはタスクの状態が表示されます。タスクが完了したら、[インベントリ] タブをクリックしてスキャンの結果を表示します。

zman ユーティリティで inventory-scan-now コマンドを使用してデバイスをスキャンすることもできます。詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management コマンドライン ユーティリティリファレンス』の「インベントリコマンド」を参照してください。

## 5.3.2 デバイスインベントリの表示

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[デバイス] タブをクリックします。
- 2 スキャンするデバイスが見つかるまでサーバまたはワークステーションフォルダをナビゲートします。
- 3 デバイスをクリックして詳細を表示します。
- 4 [インベントリ] タブをクリックします。

デバイス > サーバ > zendoc1a

no91-fr-rbxp

概要	インベントリ	関係	設定	コンテンツ	統計情報	バッチ
----	--------	----	----	-------	------	-----

**概要**

最後にスキャンした日付: 8:57

ホスト名: ZENDOC1A

部署:

位置:

[ハードウェア/ソフトウェアのインベントリの詳細](#)

**ハードウェア:**

備品タグ:	
シリアル番号:	B2BGN0J
システム:	Dell OptiPlex GX260
オペレーティングシステム:	Microsoft Windows Server 2003 5.2.2 3790
MACアドレス:	000874D437FB
合計メモリ:	1 GB
ハードディスク空き容量:	23.21 GB
ハードディスク合計容量:	40 GB

## 5.3.3 インベントリレポートの生成

ZENworks Configuration Managementは、いくつかの標準レポートを含んでいます。また、インベントリ情報の異なるビューを提供するためにカスタムレポートを作成することができます。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[レポート] タブをクリックします。





- 2 [インベントリ標準レポート] パネルで、[ソフトウェアアプリケーション] をクリックします。

インベントリレポートグループ > ソフトウェアアプリケーション

レポート	
名前	説明
<a href="#">アンチウイルス/アンチスパイウェア詳細</a>	インストールされているデバイスへのリンクのあるアンチウイルス/アンチスパイウェア定義ファイル
<a href="#">カテゴリによるソフトウェアアプリケーション</a>	カテゴリおよびサブカテゴリによるインストール済みソフトウェア製品のカウント
<a href="#">製造元によるソフトウェアアプリケーション</a>	製造元によるインストール済みソフトウェア製品のカウント
<a href="#">OSおよび製品によるソフトウェアアプリケーション</a>	製品名によるインストール済みソフトウェア製品のカウント
<a href="#">シリアル番号の複製</a>	同じシリアル番号の複製インスタンスでインストールされたソフトウェア製品のリスト
<a href="#">高帯域幅アプリケーション</a>	KaZaAおよびGnutellaなどの一般的なマルチメディアおよびファイル共有アプリケーションのカウント
<a href="#">ホットフィックス詳細</a>	インストールされているデバイスのリストへのリンクのある、ホットフィックスおよびセキュリティパッチ
<a href="#">Microsoft製品</a>	Microsoft特有の分類によってグループ化された、インストール済みMicrosoft製品のカウント
<a href="#">オペレーティングシステム</a>	インストール済みオペレーティングシステムによるデバイスのカウント
<a href="#">OSサービスパック</a>	インストール済みオペレーティングシステムおよびサービスパックによるデバイスのカウント

- 3 [オペレーティングシステム] レポートをクリックしてレポートを生成します。  
レポートの下部にあるオプションを使用して、生成されたレポートを Microsoft Excel\* スプレッドシート、CSV (カンマ区切り値) ファイル、PDF ファイル、または PDF Graph ファイルとして保存できます。

### 5.3.4 詳細の参照場所

インベントリの詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management アセットインベントリリファレンス』を参照してください。

## 5.4 デバイスのイメージング

デバイスのイメージの作成、イメージのデバイスへの適用、およびイメージングスクリプトのデバイス上での実行を行うことができます。ZENworks Configuration Management は Preboot Services 機能を使用して、これらのイメージングタスクをスタートアップ時にデバイス上で実行します。

- ◆ 66 ページのセクション 5.4.1 「プレブートサービスの設定」
- ◆ 68 ページのセクション 5.4.2 「イメージの取得」

- ◆ 69 ページのセクション 5.4.3 「イメージの適用」
- ◆ 73 ページのセクション 5.4.4 「詳細の参照場所」

## 5.4.1 プレブートサービスの設定

起動前サービスを使用するには、次のセクションのタスクを完了する必要があります。

- ◆ 66 ページの 「デバイスでの PXE の有効化」
- ◆ 66 ページの 「イメージングサーバの設定」
- ◆ 66 ページの 「サードパーティのイメージング設定の設定」

### デバイスでの PXE の有効化

Preboot サービスでは、イメージを取得または適用するすべての管理対象デバイスで PXE (Preboot Execution Environment) を有効化しておく必要があります。

PXE がデバイスで有効になっているかどうかを確認するには、デバイスを再起動して、ブートオプション (大部分のデバイスでは <F12> キー) を選択します。ネットワークのブートオプションが表示されている場合は PXE が有効になっています。

デバイスで PXE が有効になっていない場合は、デバイスの BIOS を編集して PXE を有効にします。デバイスが起動するたびに PXE 環境を確実に使用できるようにするには、ブート順を変更して、NIC (Network Interface Card) オプションが他のブートオプションより前に表示されるようにします。

### イメージングサーバの設定

イメージングサーバとは、デバイスの PXE エンジンが接続する PXE サーバです。ZENworks サーバをイメージングサーバとして機能させるには、ZENworks サーバで Novell Proxy DHCP Service を起動させるだけです。サービスを開始するときには、スタートアップタイプを手動から自動に変更して、サーバが再起動したときに必ず開始するように設定する必要があります。

### サードパーティのイメージング設定の設定

サードパーティのイメージングソリューションを使用する場合は、ZENworks コントロールセンターでサードパーティのイメージング設定を行う必要があります。ZENworks は、次のサードパーティのイメージングツールをサポートします。

- ◆ WIM イメージファイル形式および配布に WINPE を使用する Microsoft\* ImageX
- ◆ GHOST イメージファイル形式および配布に WINPE を使用する Symantec\* GHOST

ZENworks のサードパーティのイメージングでは、ブート方式に PXE のみをサポートします。

サードパーティのイメージングを設定するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターを実行しているデバイス上に Microsoft Windows Automated Installation キット 1.0/1.1 (WAIK) がインストールされていることを確認します。


WAIK は、Microsoft のダウンロードセンター Web サイト (<http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?FamilyID=c7d4bc6d-15f3-4284-9123-679830d629f2&displaylang=en>) から自由にダウンロードできます。

- 2 (オプション) 64 ビットデバイスで ZENworks コントロールセンターを実行する場合、`WAIK_installation_path\Windows AIK\Tools\x86` を Path Windows システム環境変数に追加します。

- 3 ZENworks コントロールセンターでのサードパーティのイメージングの設定。

**3a** ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。

**3b** [管理ゾーンの設定] パネルで、[デバイス管理] > [起動前サービス] > [サードパーティイメージング設定] パネルの順にクリックします。

**3c** [WinPE 基本配布のアップロード (Windows Automation Installation キットが必要)] オプションで、 をクリックして、WIM イメージングファイルをアップロードします。[WIM イメージングファイルのアップロード] ダイアログボックスで、次の操作を実行します。

**3c1** [参照] をクリックして参照し、`winpe.wim` を選択します。

デフォルトでは、`\waik\tools\petools\x86` に `winpe.wim` がインストールされています。


---


**注:** Novell File Upload 拡張機能をこのデバイスにインストールしていない場合は、インストールするディレクトリを参照してアップロードする前にインストールする必要があります。

---

**3c2** [OK] をクリックします。

これでサーバから ZENworks コントロールセンターを実行しているデバイスにイメージングファイルがダウンロードされ、またデバイスからサーバにファイルがアップロードされます。ファイルのダウンロードおよびアップロードの進捗が [ステータス] フィールドに表示されます。

**3d** [WIM イメージングをサポートするための ImageX ファイルのアップロード (ImageX.EXE)] オプションで、 をクリックして、ZENworks コントロールセンターを実行しているデバイスにインストールされている Microsoft イメージングエンジン (`imagex.exe`) を参照し、選択します。デフォルトでは、`\waik\tools\x86` に `imagex.exe` がインストールされています。

**3e** [Ghost イメージング (Ghost32.exe) をサポートするために Ghost 11.5. 以降のファイルをアップロード] オプションで、 をクリックして、ネットワーク内のデバイスに GHOST ソリューションと合わせてインストールされている Symantec GHOST エンジン (`host32.exe`) を参照し、選択します。

**3f** サードパーティのイメージング設定を行った後、[適用] をクリックします。

**3g** 管理ゾーンに含まれるすべてのプライマリサーバにおけるコンテンツの複製ステータスを表示するには、[ステータス] をクリックします。ステータスが [使用可能] の場合にのみイメージング操作を開始できます。

---

**重要:** ステータスが [使用可能] の場合にのみイメージング操作を開始できます。

---

- 4 デバイスの PXE を有効にします。

- 5 イメージングサーバまたは別のネットワークサーバに標準の DHCP サーバが配置してあることを確認してください。


## 5.4.2 イメージの取得



- 1 ZENworks コントロールセンターで、[デバイス] タブをクリックします。
- 2 イメージを取得したいデバイスが見つかるまでサーバまたはワークステーションフォルダをナビゲートします。
- 3 デバイスをクリックして詳細を表示します。



- 4 左ナビゲーションパネルにあるタスクリストで、[イメージの取得] をクリックして、イメージの取得ウィザードを起動します。
- 5 [ファイル情報] ページで、次のフィールドに入力し、[次へ] をクリックします。

**イメージ形式:** デバイス用に取得されるイメージの形式を選択します。

**サーバおよびファイルパス:**  をクリックして、[サーバとパス情報] ダイアログボックスを表示します。次のオプションを設定します。


- ◆ **サーバオブジェクト /IP/DNS:**  アイコンをクリックして、オブジェクト、IP アドレス、またはイメージングサーバの役割に昇格されるプライマリサーバまたはデイスの DNS 名を参照して選択します。
- ◆ **サーバ上のファイルパス:**  アイコンをクリックして、イメージファイルを参照して選択します。・イメージファイルには、.zmg という、有効な ZENworks のイメージファイルであることを示す拡張子が含まれる必要があります。

**注:** Linux 用に DHCP を使用する複数の検索ドメインが設定されており、サーバが Windows で動作している場合は、指定したファイルシステムを参照できません。

**イメージファイル用の共有ネットワークパス:** .wim または .gho ファイルを保存する共有ネットワークパスを指定します。ディレクトリは、Windows 共有または Linux SMB または CIFS 共有にしてください。

Novell File Upload 拡張機能をこのデバイスにインストールしていない場合は、インストールするディレクトリを参照してアップロードする前にインストールする必要があります。

**イメージファイル名:** .wim または .gho ファイルを保存するファイル名を指定します。このオプションは、Windows イメージング形式 (.wim) および GHOST イメージング形式 (.gho) でのみ表示されます。

**ネットワーク資格情報:**  をクリックして、.wim ファイルを持つデバイスにアクセスするために使用されるネットワーク資格情報を参照して選択します。このオプションは、Windows イメージ形式 (.wim) および GHOST イメージ形式 (.gho) でのみ表示されます。

**圧縮の使用:** 圧縮が必要です。次のうちのいずれかを選択してください:

- ◆ **バランス:** 再イメージングのスピードの平均とイメージファイルが利用できるディスク領域の間で自動的に圧縮をバランスします。このオプションは、ZENworks イメージ形式でのみ表示されます
- ◆ **なし:** このオプションは、Windows イメージ形式および GHOST イメージ形式についてのみ表示されます。
- ◆ **スピード重視:** 再イメージング時間が最短になるように圧縮を最適化します。CPU 速度が問題になっている場合は、このオプションを使用します。
- ◆ **容量重視:** ディスク領域を節約するようにイメージファイルのサイズを最小化するように圧縮を最適化します。このオプションを選択すると、再イメージング処理が長くなる可能性があります。

[バランス] は ZENworks イメージ形式のデフォルトオプションです。そして [スピード重視] は Windows イメージ形式と GHOST イメージ形式のデフォルトオプションです。

**イメージバンドルの作成:** このフィールドは選択解除したままにしてください。

- 6 [イメージファイルサマリ] ページの情報を確認し、[終了] をクリックし、次に [OK] をクリックします。

イメージングタスクは Preboot Services によって完了されるため、デバイスのイメージはデバイスが次に再起動されたときに取得されます。[イメージングワーク] パネルはデバイスの [サマリ] ページにあり、ワークがスケジュールされていることを示します。ワークが完了すると、このパネルからタスクが削除されます。

- 7 デバイスを直ちに再起動してイメージングワークを開始するには、左ナビゲーションパネルの [ワークステーションの再起動/シャットダウン] (または [サーバの再起動/シャットダウン]) をクリックします。

イメージの取得に必要な時間は、デバイスのドライブのサイズに依存します。

### 5.4.3 イメージの適用

イメージをデバイスに適用するには、新しいバンドルの作成 ウィザードを使用してイメージングバンドルを作成します。バンドルには適用したいイメージが含まれます。バンドルの作成の手助けに加えて、ウィザードでは、デバイスへの割り当てを行うことができます。イメージングバンドルを作成した後に、イメージングワークを開始します。

- ◆ 70 ページの「ZENworks イメージバンドルの作成」
- ◆ 71 ページの「サードパーティのイメージバンドルの作成」
- ◆ 73 ページの「イメージングワークの開始」

## ZENworks イメージバンドルの作成

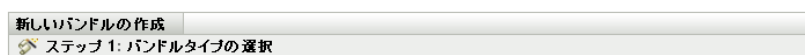
ZENworks イメージをデバイスに復元するには、ZENworks イメージバンドルを作成する必要があります。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[バンドル] タブをクリックします。

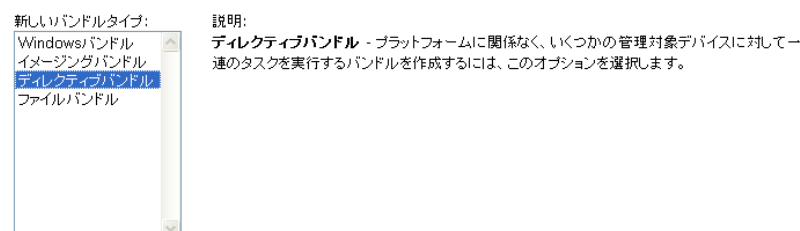


- 2 [バンドル] パネルで、[新規作成] > [バンドル] の順にクリックして新規バンドルの作成ウィザードを起動します。

[バンドル](#) > 新しいバンドルの作成



オプションのリストから作成するバンドルのタイプを選択します。




<< 戻る      次 >>      キャンセル

- 3 [バンドルタイプの選択] ページで、[イメージングバンドル] を選択して、[次へ] をクリックします。
- 4 [バンドルカテゴリの選択] ページで、[ZENworks イメージ] を選択して、[次へ] をクリックします。
- 5 次の表からの情報を使用してフィールドに入力し、ウィザードを完了します。

[ウィザード] ページ	詳細
詳細の定義ページ	タスクの名前を指定します：名前には次の無効な文字を使用することはできません。 \ * ? : " ' < >   ` % ~



[ウィザード] ページ	詳細
ZENworks イメージファイル の選択ページ	<p>イメージファイルを選択するには、次の手順に従います。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.  をクリックして、[サーバとパス情報] ダイアログボックスを表示します。</li> <li>2. 次のフィールドに入力します。  <b>デバイスオブジェクト、IP、または DNS:</b> イメージを保存した ZENworks サーバを選択します。  <b>サーバ上のファイルパス:</b> イメージファイルを参照して選択します。イメージファイルの標準保存ディレクトリは、<code>\\Novell\\ZENworks\\work\\content-repo\\images</code> です。</li> <li>3. [OK] をクリックします。</li> </ol>
[サマリ] ページ	[次へ] をクリックしてウィザードを続行し、バンドルを目的のデバイスに割り当てます。
[バンドルグループ] ページ	イメージバンドルはグループに割り当てないでください。[次へ] をクリックしてこのページをバイパスしてください。
[割り当ての追加] ページ	イメージを適用するデバイスを選択します。
[スケジュール] ページ	スケジュールをイメージバンドルに割り当てないでください。[次へ] をクリックしてこのページをバイパスしてください。
[完了] ページ	[完了] をクリックして、バンドルを作成して選択したデバイスに割り当てます。

## サードパーティのイメージバンドルの作成

サードパーティのイメージを復元するには、サードパーティのイメージバンドルを作成する必要があります。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[バンドル] タブをクリックします。



- 2 [バンドル] パネルで、[新規作成] > [バンドル] の順にクリックして新規バンドルの作成ウィザードを起動します。

新しいバンドルの作成

ステップ 1: バンドルタイプの選択

オプションのリストから作成するバンドルのタイプを選択します。

新しいバンドルタイプ:

Windowsバンドル  
イメージングバンドル  
**ディレクトティブバンドル**  
ファイルバンドル

説明:  
**ディレクトティブバンドル** - プラットフォームに関係なく、いくつかの管理対象デバイスに対して一連のタスクを実行するバンドルを作成するには、このオプションを選択します。

<< 戻る
次 >>
キャンセル

- 3 [バンドルタイプの選択] ページで、[イメージングバンドル] を選択して、[次へ] をクリックします。
- 4 [バンドルカテゴリの選択] ページで、[サードパーティのイメージ] を選択して、[次へ] をクリックします。
- 5 次の表からの情報を使用してフィールドに入力し、ウィザードを完了します。

[ウィザード] ページ	詳細
詳細の定義ページ	タスクの名前を指定します：名前には次の無効な文字を使用することはできません。 \ \ * ? : " ' < >   ` % ~
[サードパーティのイメージファイルの選択] ページ	<p>サードパーティのイメージファイルを選択するには、次の手順に従います。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. バンドルで使用されるイメージのタイプを選択します。 ZENworks 10 Configuration Management SP2 では、Windows イメージ形式 (.wim) と GHOST イメージ形式 (.gho) のみを使用できます。</li> <li>2. .wim または .gho ファイルを持つ共有ネットワークディレクトリを指定します。ディレクトリは、Windows 共有または Linux SMB または CIFS 共有にしてください。</li> <li>3.  をクリックして、.wim または .gho ファイルを持つデバイスにアクセスするために使用するネットワーク資格情 を参照して選択します。</li> <li>4. WIM バンドルをアドオンイメージとして使用する場合は、[WIM をアドオンとして復元] を選択し、次のオプションを設定します。 <b>イメージ番号 (WIM のみ)</b>: 復元するイメージの番号を選択します。 <b>アドオンイメージを復元するパス</b>: アドオンイメージを復元するデバイスのロケーションを指定します。</li> <li>5. [OK] をクリックします。</li> </ol>
[サマリ] ページ	[次へ] をクリックしてウィザードを続行し、バンドルを目的のデバイスに割り当てます。



[ウィザード] ページ	詳細
[バンドルグループ] ページ	イメージバンドルはグループに割り当てないでください。[次へ]をクリックしてこのページをバイパスしてください。
[割り当ての追加] ページ	イメージを適用するデバイスを選択します。
[スケジュール] ページ	スケジュールをイメージバンドルに割り当てないでください。[次へ]をクリックしてこのページをバイパスしてください。
[完了] ページ	[完了] をクリックして、バンドルを作成して選択したデバイスに割り当てます。

## イメージングワークの開始

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[デバイス] タブをクリックします。
- 2 イメージを適用するデバイスが見つかるまでサーバまたはワークステーションフォルダをナビゲートします。
- 3 デバイスをクリックして詳細を表示します。
- 4 左ナビゲーションパネルにあるタスクリストで、[割り当てられたイメージングバンドルの適用] をクリックして、ワークをスケジュールします。  
イメージングタスクは Preboot Services によって完了されるため、イメージはデバイスが次に再起動されたときにデバイスに適用されます。[イメージングワーク] パネルはデバイスの [サマリ] ページにあり、ワークがスケジュールされていることを示します。ワークが完了すると、このパネルからタスクが削除されます。
- 5 デバイスを直ちに再起動してイメージングワークを開始するには、左ナビゲーションパネルの [ワークステーションの再起動/シャットダウン] (または [サーバの再起動/シャットダウン]) をクリックします。

### 5.4.4 詳細の参照場所

イメージングおよびプレブートサービスの詳細については、『*ZENworks 10 Configuration Management プレブートサービスとイメージングリファレンス*』を参照してください。

## 5.5 デバイスのリモート管理

ZENworks Configuration Management は、デバイスをリモートで管理できるリモート管理機能を提供します。リモート管理では、次の操作をサポートします。

- ◆ **リモートコントロール**：管理コンソールから管理対象デバイスをリモートコントロールできます。これにより、ユーザをサポートし、問題の解決を支援できます。ユーザがデバイスで実行できるすべての操作を実行できます。
- ◆ **リモートビュー**：管理対象デバイスをコントロールするのではなく、管理対象デバイスに接続して管理対象デバイスを表示できるようにします。これは、ユーザのワークステーションで発生している問題を解決する際に役立ちます。たとえば、管理対象デバイスのユーザが特定の操作を実行している様子を監視し、その実行方法が間違っていないかどうかを確認できます。
- ◆ **リモート実行**：管理コンソールから管理対象デバイスですべての実行可能ファイルを実行できます。リモートでアプリケーションを実行するには、[リモート実行] ダイアログボックスで実行名を指定します。アプリケーションが管理対象デバイス上の

システムパスにない場合は、アプリケーションの完全なパスを指定します。たとえば、regedit コマンドを実行して、管理対象デバイスでレジストリエディタを開くことができます。[リモート実行] ダイアログボックスには、コマンド実行のステータスが表示されます。

- ◆ **リモート診断**：管理対象デバイス上の問題を診断し、分析できます。これにより、問題の解決に要する時間が短縮されると共に、問題の発生しているデバイスまで技術者が出向くことなく、問題を抱えているユーザを支援できるようになります。デスクトップを稼働させたまま診断を実行できるため、ユーザ側の生産性も向上します。
- ◆ **ファイル転送**：管理コンソールと管理対象デバイス間でファイルを転送できます。

次のセクションでは、リモート管理の設定および各操作の実行方法について説明します。

- ◆ 74 ページのセクション 5.5.1 「リモート管理ポリシーの作成」
- ◆ 75 ページのセクション 5.5.2 「リモート管理設定」
- ◆ 76 ページのセクション 5.5.3 「リモートコントロール、リモートビュー、およびリモート実行操作の実行」
- ◆ 78 ページのセクション 5.5.4 「リモート診断操作の実行」
- ◆ 80 ページのセクション 5.5.5 「ファイル転送操作の実行」
- ◆ 81 ページのセクション 5.5.6 「詳細の参照場所」

## 5.5.1 リモート管理ポリシーの作成

デフォルトでは、デバイス上で ZENworks Adaptive Agent がリモート管理コンポーネントと共に展開されている場合は、管理対象デバイス上にセキュアリモート管理ポリシーが作成されます。デフォルトポリシーを使用してデバイスをリモートで管理できます。デフォルトポリシーを使用すると、デバイスに対するすべてのリモート管理操作を実行できます。デフォルトポリシーを上書きするには、デバイスに明示的にリモート管理ポリシーを作成します。

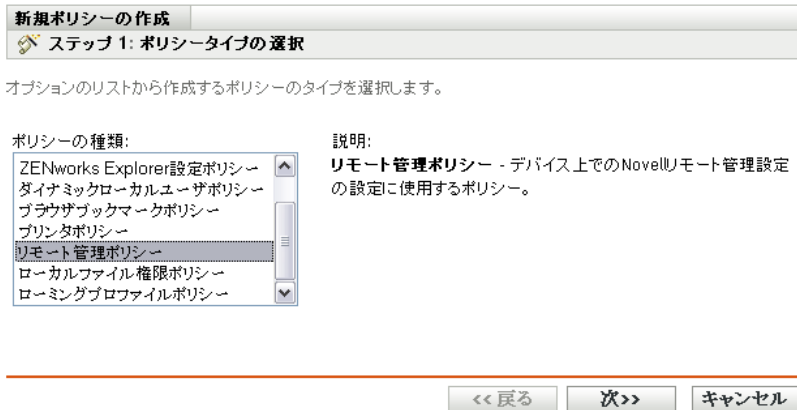
リモート管理ポリシーは、デバイスまたはユーザに対して割り当てることができます。

リモート管理ポリシーを作成するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[ポリシー] タブをクリックします。



- 2 [ポリシー] パネルで、[新規] > [ポリシー] の順にクリックして、新規ポリシーの作成ウィザードを起動します。



- 3 プロンプトに従って、リモート管理ポリシーの作成、割り当て、およびスケジュールを行います。

ウィザードの各ページで [ヘルプ] ボタンをクリックすると、そのページの詳細情報が表示されます。ウィザードを完了すると、ポリシーが [ポリシー] パネルに追加されます。ポリシーをクリックすると、ポリシーの詳細の表示および割り当ての変更、スケジュールなどを行うことができます。

## 5.5.2 リモート管理設定

[設定] ページのリモート管理設定では、リモート管理ポート、セッションパフォーマンス、および使用可能な診断アプリケーションなどを指定できます。

設定は事前定義されており、最も一般的な設定が提供されています。設定を変更するには、次の手順を実行します。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。
- 2 [管理ゾーンの設定] パネルで、[デバイス管理] > [リモート管理] の順にクリックします。

**リモート管理**  
リモート管理を有効にして設定します。

---

**リモート管理設定**

**サービス設定**  
☒ リモート管理サービスをポートで実行

---

**セッション設定**  
☒ リモートセッションの開始時に、ピュアのDNS名を検索する  
☒ 管理対象デバイスにユーザがログインしていない場合は、リモートセッションを許可

---

**リモートセッション中の実行設定**  
☒ 壁紙を抑制  
☒ 最適化ドライバを有効にする

---

**プロキシ設定**

追加	削除		
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	プロキシ	IPアドレス範囲
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	10.10.1.1	5850

---

リモート診断中にデバイスで起動されるアプリケーションを設定

**診断アプリケーション**

追加	削除	元に戻す	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	アプリケーション
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	システム情報
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	コンピュータ管理
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	サービス
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	レジストリエディタ

- 必要に応じて、設定を変更します。  
各ページで「ヘルプ」ボタンをクリックすると、そのページの詳細情報が表示されます。
- 設定の変更が終わったら、「適用」または「OK」をクリックして変更を保存します。

### 5.5.3 リモートコントロール、リモートビュー、およびリモート実行操作の実行

- ZENworks コントロールセンターで、「デバイス」タブをクリックします。
- 管理するデバイスが見つかるまで Servers または Workstations フォルダをナビゲートします。
- デバイスの前にあるチェックボックスをクリックしてデバイスを選択します。
- 左ナビゲーションパネルにあるタスクリストで、「リモートコントロールワークステーション」または「リモートコントロールサーバ」をクリックして、「リモート管理」ダイアログボックスを表示します。

## 5 [リモート管理] ダイアログボックスで、次のフィールドに入力します：

**デバイス：**リモートで管理するデバイスの名前または IP アドレスを指定します。

**説明：**管理対象デバイスで実行するリモート操作のタイプ (リモートコントロール、リモートビュー、またはリモート実行) を選択します。

**認証：**管理対象デバイスを認証するために使用するモードを選択します。オプションには次の 2 つがあります。

- パスワード：**パスワードベース認証を提供して、リモートコントロール操作を実行します。パスワードは、管理対象デバイスのユーザにより設定されているように、またはリモート管理ポリシーのセキュリティ設定で管理者により設定されているように正しく入力する必要があります。ユーザにより設定されるパスワードは、管理者により設定されるパスワードより優先されます。
- 権利：**このオプションは、リモート操作を実行する管理対象デバイスを選択した場合のみ使用できます。選択した管理対象デバイスで目的のリモート操作を実行するリモート管理権が管理者より割り当てられている場合、セッション開始時に自動的にアクセス権を取得します。

**ポート：**リモート管理エージェントがリスンするポート番号を指定します。デフォルトのポート番号は 5950 です。

**セッションモード：**次のいずれかのセッションモードを選択します。

- コラボレート：**コラボレーションモードでリモートコントロールセッションとリモート表示セッションを起動できます。ただし、管理対象デバイスで、最初にリモートビューセッションを起動することはできません。リモートコントロールセッションを管理対象デバイスで最初に起動した場合、次に示すマスタリモートオペレータのすべての権限が得られます。
  - 他のリモートオペレータにリモートセッションに参加するように呼びかける
  - リモートコントロール権をリモートオペレータに委任する

- ◆ コントロールをリモートオペレータから再取得する
- ◆ リモートセッションを終了する

コラボレーションモードで管理対象デバイスのリモートコントロールセッションが確立すると、管理対象デバイスのその他のリモートセッションはリモートビューセッションになります。

- ◆ **共有**：複数のリモートオペレータで同時に管理対象デバイスをコントロールできます。
- ◆ **排他的**：管理対象デバイスに対する排他的なリモートセッションを持つことができます。セッションが排他モードで開始されると、他のリモートセッションは、管理対象デバイスで開始できなくなります。

**セッションの暗号化**：SSL 暗号化 (TLSv1 プロトコル) を使用してリモートセッションのセキュリティを保持します。

**キャッシング有効**：リモート管理セッションデータのキャッシングを有効にしてパフォーマンスを向上させます。このオプションは、リモート管理操作に対してのみ利用できます。このオプションは、現在 Windows でのみサポートされています。

**帯域幅の動的な最適化の有効化**：使用可能なネットワーク帯域幅の検出を有効にし、それに従ってセッション設定を調整してパフォーマンスを強化します。このオプションは、リモート管理操作に対してのみ利用できます。

**ログインの有効化**：セッションおよびデバッグ情報を novell-zenworks-vncviewer.txt ファイルに記録します。ファイルのデフォルトの保存場所は、Internet Explorer から ZENworks コントロールセンターを起動した場合はデスクトップで、Mozilla FireFox\* から ZENworks コントロールセンターを起動した場合は Mozilla のインストールディレクトリです。

**リモート管理ビューアのインストール**：[リモート管理ビューアのインストール] リンクをクリックして、リモート管理ビューアをインストールします。このリンクが表示されるのは、管理対象デバイスで初めてリモート管理セッションを実行している場合、またはリモート管理ビューアが管理対象デバイスにインストールされていない場合だけです。

6 [OK] をクリックして、セッションを起動します。

## 5.5.4 リモート診断操作の実行

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[デバイス] タブをクリックします。
- 2 管理するデバイスが見つかるまで Servers または Workstations フォルダをナビゲートします。
- 3 デバイスの前にあるチェックボックスをクリックしてデバイスを選択します。
- 4 左側のナビゲーションウィンドウのタスクリストで、[リモート診断] をクリックして [リモート診断] ダイアログボックスを表示します。

リモート診断

デバイス: blr-srm-r13t

アプリケーション: システム情報

認証: 権限

オプションを非表示

ポート: 5950

セッションモード: ☒ 協同 ☐ 共用 ☐ 単独的

セッション暗号化: ☒

キャッシング有効: ☒

帯域幅の動的最適化: ☒

ログを有効にする: ☐

☐ プロキシ経由のルート

プロキシ:

プロキシポート:

OK キャンセル

[リモート管理ビューアのアップグレード](#)

**5** [リモート診断] ダイアログボックスで、次のフィールドに入力します：

**デバイス：**リモートで診断するデバイスの名前または IP アドレスを指定します。

**アプリケーション：**リモートで診断するデバイスで起動するアプリケーションを選択します。

**認証：**管理対象デバイスを認証するために使用するモードを選択します。オプションには次の 2 つがあります。

- **パスワード：**パスワードベース認証を提供して、リモート診断操作を実行します。パスワードは、管理対象デバイスのユーザにより設定されているように、またはリモート管理ポリシーのセキュリティ設定で管理者により設定されているように正しく入力する必要があります。ユーザにより設定されるパスワードは、管理者により設定されるパスワードより優先されます。
- **権利：**このオプションは、リモート操作を実行する管理対象デバイスを選択した場合のみ使用できます。選択した管理対象デバイスで目的のリモート操作を実行するリモート管理権が管理者より割り当てられている場合、セッション開始時に自動的にアクセス権を取得します。

**ポート：**リモート管理エージェントがリスンするポート番号を指定します。デフォルトのポート番号は 5950 です。

**セッションモード：**リモート診断操作には適用されません。

**セッションの暗号化：**SSL 暗号化 (TLSv1 プロトコル) を使用してリモートセッションのセキュリティを保持します。

**キャッシング有効：**リモート管理セッションデータのキャッシングを有効にしてパフォーマンスを向上させます。このオプションは、現在 Windows でのみサポートされています。

**帯域幅の動的な最適化の有効化：**使用可能なネットワーク帯域幅の検出を有効にし、それに従ってセッション設定を調整してパフォーマンスを強化します。

**ログインの有効化:** セッションおよびデバッグ情報を novell-zenworks-vncviewer.txt ファイルに記録します。ファイルのデフォルトの保存場所は、Internet Explorer から ZENworks コントロールセンターを起動した場合はデスクトップで、Mozilla FireFox から ZENworks コントロールセンターを起動した場合は Mozilla のインストールディレクトリです。

6 [OK] をクリックして、セッションを起動します。

## 5.5.5 ファイル転送操作の実行

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[デバイス] タブをクリックします。
- 2 管理するデバイスが見つかるまで Servers または Workstations フォルダをナビゲートします。
- 3 デバイスの前にあるチェックボックスをクリックしてデバイスを選択します。
- 4 左側のナビゲーションウィンドウのタスクリストで、[リファイル転送] をクリックして [ファイル転送] ダイアログボックスを表示します。

5 [ファイル転送] ダイアログボックスで、次のフィールドに入力します：

**デバイス:** アクセスするデバイスの名前または IP アドレスを指定します。

**認証:** 管理対象デバイスを認証するために使用するモードを選択します。オプションには次の 2 つがあります。

- ◆ **パスワード:** パスワードベース認証を提供して、操作を実行します。パスワードは、管理対象デバイスのユーザにより設定されているように、またはリモート管理ポリシーのセキュリティ設定で管理者により設定されているように正しく入力する必要があります。ユーザにより設定されるパスワードは、管理者により設定されるパスワードより優先されます。
- ◆ **権利:** このオプションは、リモート操作を実行する管理対象デバイスを選択した場合のみ使用できます。選択した管理対象デバイスで目的のリモート操作を実行するリモート管理権が管理者より割り当てられている場合、セッション開始時に自動的にアクセス権を取得します。



**ポート:** リモート管理エージェントがリスンするポート番号を指定します。デフォルトのポート番号は 5950 です。

**セッションモード:** ファイル転送操作には適用されません。

**セッションの暗号化:** SSL 暗号化 (TLSv1 プロトコル) を使用してリモートセッションのセキュリティを保持します。

**ログインの有効化:** セッションおよびデバッグ情報を novell-zenworks-vncviewer.txt ファイルに記録します。ファイルのデフォルトの保存場所は、Internet Explorer から ZENworks コントロールセンターを起動した場合はデスクトップで、Mozilla FireFox から ZENworks コントロールセンターを起動した場合は Mozilla のインストールディレクトリです。

6 [OK] をクリックして、セッションを起動します。

### 5.5.6 詳細の参照場所

デバイスをリモートで管理する詳細については、『*ZENworks 10 Configuration Management リモート管理リファレンス*』を参照してください。

## 5.6 ソフトウェアのパッチ適用

ZENworks Patch Management は個別にライセンス許可される製品であり、評価用として ZENworks Configuration Management に含まれています。Patch Management を使用すると、ソフトウェアパッチを自動的に一貫して適用して脆弱性および問題を最小限にすることができます。

Patch Management は、Patchlink Patch Subscription Service と定期的に通信することにより最新パッチとフィックスで常に最新に保たれます。最初の 60 日間の試用期間が過ぎると、Patch Management の最新脆弱性およびパッチ情報の日次ダウンロードを継続するには有料申し込みが必要です。

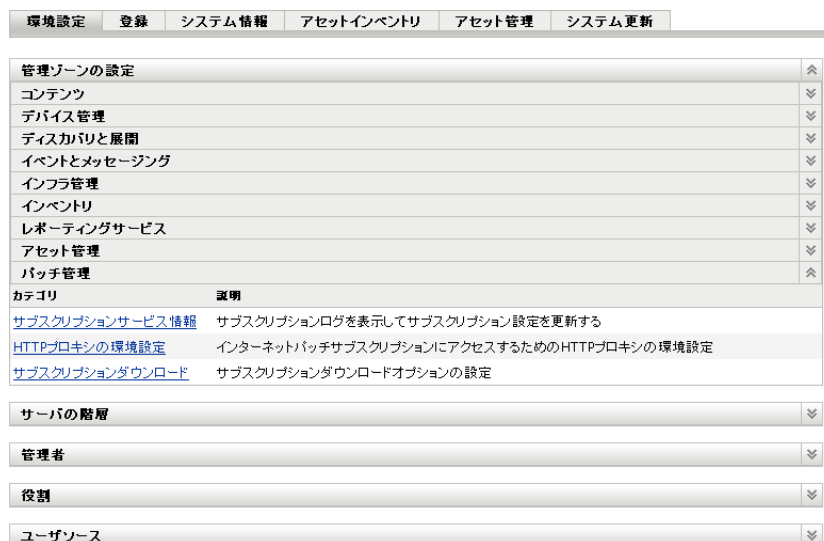
新しいパッチがサブスクリプションサービスから利用可能になると、ZENworks サーバは自動的にパッチをダウンロードします。[脆弱性] ページは新しいパッチと説明およびビジネスの影響を表示します。パッチはデバイスに展開するか、またはパッチを破棄することもできます。

- ◆ 82 ページのセクション 5.6.1 「サブスクリプションサービスの開始」
- ◆ 83 ページのセクション 5.6.2 「パッチの展開」
- ◆ 83 ページのセクション 5.6.3 「サブスクリプションライセンスの購入とアクティベート」
- ◆ 83 ページのセクション 5.6.4 「新しいパッチ管理ライセンスの提供」
- ◆ 84 ページのセクション 5.6.5 「パッチ管理ライセンスの更新」
- ◆ 84 ページのセクション 5.6.6 「詳細の参照場所」

## 5.6.1 サブスクリプションサービスの開始

パッチの受け取りを開始する前に、ZENworks サーバのいずれかでサブスクリプションサービスを開始し、パッチのダウンロード用のデリースケジュールを設定する必要があります。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。



The screenshot shows the '環境設定' (Environment Settings) tab in the ZENworks Control Center. The left sidebar contains a list of settings categories: 管理ゾーンの設定, コンテンツ, デバイス管理, ディスカリと展開, イベントとメッセージング, インフラ管理, インベントリ, レポーティングサービス, アセット管理, パッチ管理, カテゴリ, サーバの階層, 管理者, 役割, and ユーザソース. The main area displays the 'パッチ管理' (Patch Management) section, which includes a 'サブスクリプションサービス情報' (Subscription Service Information) panel. This panel contains links for 'サブスクリプションサービス情報', 'HTTPプロキシの環境設定', and 'サブスクリプションダウンロード'. Below this, there is a 'サブスクリプションサービス履歴' (Subscription Service History) table with columns for Action, Status, Start Date, End Date, Period, and Success. The table is currently empty, showing a message '使用できる項目がありません。' (No items available for use).

- 2 [管理ゾーン設定] パネルで、[パッチ管理サービス] をクリックし、[サブスクリプションサービス情報] をクリックします。

[環境設定](#) > サブスクリプションサービス情報



The screenshot shows the 'サブスクリプションサービス情報' (Subscription Service Information) dialog box. The dialog has a title bar with a close button. Below the title bar, there is a subtitle 'サブスクリプションログを表示してサブスクリプション設定を更新する'. The main content area is divided into two sections. The top section, 'サブスクリプションサービス情報', contains a dropdown menu for 'サブスクリプションサービスの開始' (Subscription Service Start) with '1つ選択' (Select one) and a 'サービスの開始' (Start Service) button. Below this, there are labels for '最後のサブスクリプションロール', 'サブスクリプションレプリケーション状態', 'サブスクリプションホスト', and 'サブスクリプション通信間隔(毎日)' (Subscription Communication Interval (Daily)). The interval is set to '00:00' and there is a '今すぐ更新' (Update Now) button. The bottom section, 'サブスクリプションサービス履歴' (Subscription Service History), contains a table with columns: アクション (Action), タイプ (Type), ステータス (Status), 開始日 (Start Date), 終了日 (End Date), 期間 (Period), and 成功 (Success). The table is currently empty, showing a message '使用できる項目がありません。' (No items available for use). At the bottom of the dialog, there are buttons for 'OK', '適用' (Apply), 'リセット' (Reset), and 'キャンセル' (Cancel).

- 3 [サブスクリプションサービスの開始] リストで、サブスクリプションサービスを実行する ZENworks サーバを選択して、[サービスの開始] をクリックします。
- 4 [サブスクリプション通信インターバル(毎日)] リストで、毎日パッチをダウンロードする時刻を選択します。
- 5 [OK] をクリックします。

## 5.6.2 パッチの展開

パッチを展開するには、改善の展開ウィザードを使用します。ウィザードでは、パッチが適用されるデバイスのみを一覧表示し、パッチを適用しないデバイスを選択解除することができます。また、いつパッチを展開するかをスケジュールすることができます。

次の手順は、1つまたは複数のパッチがサブスクリプションサービスから利用可能であると想定しています。

- 1 Zenworks コントロールセンターで、[脆弱性] タブをクリックします。
- 2 [脆弱性] パネルで、パッチの前のチェックボックスをオンにして適用するパッチを選択し、次に [アクション] > [改善の展開] の順にクリックして改善の展開ウィザードを起動します。
- 3 プロンプトに従って、パッチを展開します。  
ウィザードの各ページで [ヘルプ] ボタンをクリックすると、そのページの詳細情報が表示されます。

## 5.6.3 サブスクリプションライセンスの購入とアクティベート

60 日間の評価期間が過ぎると、引き続きサブスクリプションサービスからパッチを受け取るには、Patch Management のサブスクリプションライセンスが必要になります。このサブスクリプションライセンスを購入するには、[Novell ZENworks Patch Management 製品サイト \(http://www.novell.com/products/zenworks/patchmanagement\)](http://www.novell.com/products/zenworks/patchmanagement) を参照してください。

サブスクリプションライセンスを購入したら、サブスクリプションをアクティベートする必要があります。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。
- 2 [管理ゾーン設定] パネルで、[パッチ管理サービス] をクリックし、[製品シリアル番号] をクリックします。
- 3 [シリアル番号]、[会社名]、および [メールアドレス] フィールドに入力して、[適用] をクリックします。  
これらの情報を入力すると、サブスクリプションライセンスレコードが説明、購入日、ベンダー、有効開始日、有効期限日とともに表示されます。

## 5.6.4 新しいパッチ管理ライセンスの提供

ZENworks Configuration Management のインストール中にパッチ管理サブスクリプションライセンスを指定しなかった場合 (評価版ライセンスを使用している場合)、後で ZENworks コントロールセンターで購入したサブスクリプションライセンスを指定できます。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] > [環境設定] の順にクリックします。
- 2 製品ライセンスのセクションで、[ZENworks 10 Patch Management] をクリックします。
- 3 次のフィールドに入力します。

**製品サブスクリプションのシリアル番号:** サブスクリプションライセンスを購入したときに提供された、シリアル番号。

会社名 : サブスクリプションライセンスの購入に使用した、ユーザの会社名。

メールアドレス : 必要なときに連絡ができる、メールアドレス。

4 [適用] をクリックします。

### 5.6.5 パッチ管理ライセンスの更新

パッチを受け取るライセンスの期限が切れた場合、TID 3077372 の手順を使用してライセンスを更新してください。Novell のサポート Web サイト (<http://www.novell.com/support/microsites/microsite.do>) を参照してください。

### 5.6.6 詳細の参照場所

ソフトウェアのパッチ適用の詳細については、『*Novell ZENworks 10 Patch Management リファレンス*』を参照してください。

## 5.7 ライセンスコンプライアンスの監視





ZENworks Asset Management では、管理ゾーンにあるデバイスのライセンスコンプライアンスを監視できます。このセクションでは、購入記録のインポート、ライセンス製品の作成、購入ライセンスと使用されたライセンスの調整、および管理ゾーンのコンプライアンスステータスの表示方法について説明します。コンプライアンスとライセンス管理、契約管理、および使用量レポートの詳細については、『*ZENworks 10 Asset Management リファレンス*』を参照してください。

次のセクションでは、管理ゾーンにあるデバイスのライセンスコンプライアンスの監視を開始する方法について説明します。

- 84 ページのセクション 5.7.1 「購入記録のインポート」
- 85 ページのセクション 5.7.2 「ライセンス製品の作成」
- 86 ページのセクション 5.7.3 「コンプライアンスデータの表示」

### 5.7.1 購入記録のインポート

購入記録を作成する最も簡単な方法は、購入記録をインポートすることです。Asset Management ではさまざまな購入記録形式がサポートされています。標準の形式は、ZENworks Asset Management 標準インポートファイルです。Asset Management では、次のリセラーコネクタもサポートされています。

-  CompuCom ソフトウェアコンプライアンスレポート
-  Softchoice 製品履歴レポート
-  ZENworks Asset Management リセラーコネクタレポート
-  SHI ライセンスコンプライアンスレポート

購入記録を手動で作成するには、『*ZENworks 10 Asset Management リファレンス*』を参照してください。


購入記録をインポートするには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[Asset Management] タブをクリックします。

- 2 [ライセンス管理] パネルで、[購入記録] をクリックします。

[ライセンス管理](#) > [購入記録](#)

購入記録 インポートステータス		
新規 移動... 削除 アクション		
<input type="checkbox"/> PO番号	注文日	販売者
使用できる項目がありません。		

- 3 [アクション] > [インポートの開始] の順にクリックします。
- 4 [インポート] ダイアログボックスで、ファイル名を指定するか、[参照] をクリックしてファイルを検索して [OK] をクリックします。
- 5 メニューバーの右側にある [更新] アイコン  をクリックします。…  
[購入記録] パネルにインポートファイルの購入記録の一覧が表示されます。

購入記録をインポートすると、Asset Management により、コンプライアンス計算に使用されるライセンス情報があるカタログ製品が作成されます。次の手順で、ライセンス製品を作成し、新たに作成されたカタログ製品と調整します。 **ライセンス製品の作成**に進みます。

## 5.7.2 ライセンス製品の作成

コンプライアンスレポートを実行する前に、管理ゾーン内で検出されたすべてのソフトウェア製品に対してライセンス製品を作成する必要があります。作成されたライセンス製品は、管理ゾーン内で検出された製品と調整でき、コンプライアンスの計算に使用できます。

ライセンス製品を作成して検出された製品と調整するには、次の手順に従います。

- 1 デフォルトの設定で管理ゾーンのインベントリスキャンを実行します。  
インベントリスキャンの実行の詳細については、『**ZENworks 10 Configuration Management アセットインベントリリファレンス**』を参照してください。
- 2 ZENworks コントロールセンターで、[Asset Management] タブをクリックします。
- 3 [ライセンス管理] パネルで、[ライセンス製品] をクリックします。

[ライセンス管理](#) > [ライセンスされた製品](#)

コンプライアンスの更新開始: 2009/05/11 22:00:01 開始者: (毎日更新)						終了: 2009/05/11 22:00:07 3 個のライセンスされた製品	
ライセンスされた製品							
新規 移動... 削除 アクション							
<input type="checkbox"/> 名前	ステータス	検出された製品	カタログ製品	ライセンス数	割り当てられた数		
使用できる項目がありません。							

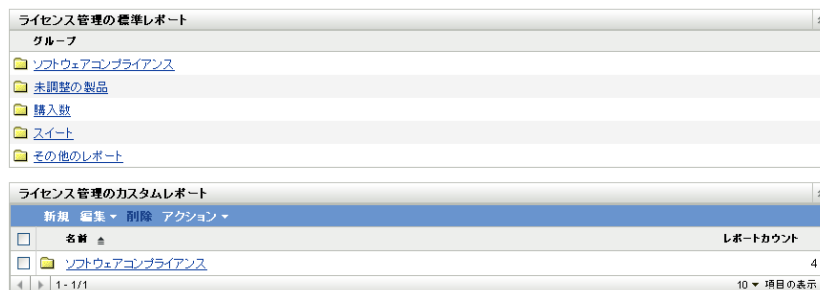
- 4 [ライセンス製品] パネルで、[アクション] > [自動調整済み: ライセンス製品の作成] の順にクリックして、自動調整ウィザードを起動します。次の表からの情報を使用してフィールドに入力し、ウィザードを完了します。

「ウィザード」 ページ	詳細
「ライセンスエンタイトルメント」 ページ	<p>ライセンスエンタイトルメントの説明を追加します。</p> <p>次のライセンスモデルのいずれかを選択します。</p> <p><b>インストールごと</b>: インストールごとにソフトウェアがライセンスされます。</p> <p><b>OEM</b>: ソフトウェアが OEM パッケージの一部としてライセンスされます。</p> <p><b>マシン</b>: ソフトウェアがマシンごとにライセンスされます。</p>
「検出された製品フィルタ」 ページ	調整する検出された製品を選択します。検出されたすべての製品と調整するには、[すべて] を選択します。特定の製品と調整するには、[以下に指定した製品] を選択して製造元と製品名を入力します。
「作成するライセンス製品の選択」 ページ	作成するライセンス製品および含める検出された製品を選択します。カタログ製品が一覧に表示されている場合は、含めるカタログ製品を選択します。
「自動調整作成サマリ」 ページ	データを確認し、[終了] をクリックしてライセンス製品を作成し、関連の検出された製品およびカタログ製品と調整します。

- 5 コンプライアンスの監視に関する情報については、次のセクション、「**コンプライアンスデータの表示**」に進みます。

### 5.7.3 コンプライアンスデータの表示

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[Asset Management] タブをクリックします。
- 2 「ライセンス管理」 パネルで、[ライセンス管理レポート] をクリックします。



- 3 「ライセンス管理の標準レポート」 パネルで、[ソフトウェアコンプライアンス] をクリックします。
- 4 「レポート」 パネルで、[コンプライアンスレポート] をクリックします。

ソフトウェアコンプライアンスレポート

実行日: 09/05/13  
レポート期間: 直前3ヶ月  
未調査のデバイス製品: 233  
未調査の無効化された製品: 26  
コンプライアンスが計算された日時: 09/05/13 8:02:16

1 ライセンス記録

コンプライアンスステータス:  
☐ 不明  
☐ 以上  
☐ 正しい  
☐ 以下  
☒ すべて

フィルタ基準:  
☐ 製造元  
☐ 値

製造元	製品	バージョン	ステータス	使用データソース	ライセンス数	インストール済み数	使用されたライセンス	ライセンス以上数	ライセンス以下数	アクティブな使用量	未使用のインストール	最近の再計算
Oracle			インベントリ		0	2	2	0	2	0	2	

ライセンス別のコンプライアンスデータが示されているレポートが表示されます。データはコンプライアンスステータス、製造元と値、または人口統計の条件別にフィルタできます。特定のライセンス製品のコンプライアンスの詳細を確認するには、[ライセンス数量] を展開します。その他のレポートの情報については、『ZENworks 10 Configuration Management アセットインベントリリファレンス』を参照してください。

## 5.8 デバイスのリタイアまたはリタイア解除

サーバまたはワークステーションデバイスをリタイアすると、選択したデバイスはZENworks ゾーンから削除されます。デバイスのリタイアは、デバイスを削除するのとは異なります。デバイスをリタイアしても、GUID は保持されます (反対に、デバイスを削除するとデバイスの GUID も削除されます)。結果として、すべてのインベントリ情報は保持されたままでアクセス可能ですが、すべてのポリシーおよびバンドルの割り当ては削除されます。後でデバイスのリタイアを解除する場合、割り当ては復元されます。管理対象デバイスとインベントリされたデバイスの両方をリタイアできます。

デバイスのリタイアまたはリタイア解除を行うには、デバイス変更の権限を持っている必要があります。詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management システム管理リファレンス』の「管理者権限の管理」を参照してください。

管理対象デバイスのリタイアまたはリタイア解除を行うには、次に手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[デバイス] タブをクリックします。
- 2 [サーバ] または [ワークステーション] フォルダの横にある下線付きのリンクをクリックすると、ご使用の ZENworks システムに含まれるサーバまたはワークステーションのリストが表示されます。

デバイス

新規 編集 削除 アクション クイックタスク

ステータス	名前	タイプ	オペレーティングシステム	最近の連絡	使用停止
<input type="checkbox"/>	Windows 2000 Servers	動的サーバグループ			
<input type="checkbox"/>	Windows Server 2003	動的サーバグループ			
<input type="checkbox"/>	Windows Server 2008	動的サーバグループ			
<input type="checkbox"/>	rawhide	サーバ	win2003r2-ee-sp2-x86	17:18	


1 - 4/4 25 項目の表示

- 3 サーバまたはワークステーションの前にあるチェックボックスをオンにします (デバイスは複数選択できます)。

ZENworks プライマリサーバをリタイアするには、まずそれを降格させる必要があります。詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management システム管理リファレンス』の「プライマリサーバの親子関係の変更」を参照してください。

- 4 [アクション] > [デバイスのリタイア] の順にクリックします。  
または

[アクション] > [リタイア解除] の順にクリックします。

 アイコンがリタイアしたデバイスの [サーバ] または [ワークステーション] リストの [状態] カラムに表示されます。時刻の上にマウスを乗せると、詳細な日付と時刻が表示されます。

インベントリされたデバイスのリタイアまたはリタイア解除を行うには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[デバイス] > [インベントリ済み] の順にをクリックします。
- 2 [サーバ] または [ワークステーション] フォルダの横にある下線付きのリンクをクリックすると、ご使用の ZENworks システムに含まれるサーバまたはワークステーションのリストが表示されます。




デバイス					
新規 ▾ 編集 ▾ 削除 ▾ アクション ▾ クイックタスク ▾					
<input type="checkbox"/>	ステータス	名前	タイプ	オペレーティングシステム	最近の連絡
<input type="checkbox"/>		<a href="#">Windows 2000 Servers</a>	動的サーバグループ		
<input type="checkbox"/>		<a href="#">Windows Server 2003</a>	動的サーバグループ		
<input type="checkbox"/>		<a href="#">Windows Server 2008</a>	動的サーバグループ		
<input type="checkbox"/>		<a href="#">rawhide</a>	サーバ	win2003r2-ee-sp2-x86	17:18

1 - 4/4 25 項目の表示

- 3 リタイアまたはリタイア解除するサーバまたはワークステーションの前にあるチェックボックスをオンにします (デバイスは複数選択できます)。
- 4 [アクション] > [デバイスのリタイア] の順にクリックします。

または

[アクション] > [デバイスのリタイア解除] の順にクリックします。

 アイコンがリタイアしたデバイスの [サーバ] または [ワークステーション] リストの [状態] カラムに表示されます。時刻の上にマウスを乗せると、詳細な日付と時刻が表示されます。



# システムメッセージおよびレポート

# 6

Novell® ZENworks® 10 Configuration Management を使用すると、管理ゾーン内のアクティビティをシステムメッセージおよびレポートを通じて監視できます。

- 89 ページのセクション 6.1 「システムメッセージの参照」
- 92 ページのセクション 6.2 「ウォッチリストの作成」
- 93 ページのセクション 6.3 「レポートの生成」

## 6.1 システムメッセージの参照

ZENworks システムでは、ソフトウェアの配布およびポリシーのアプリケーションなどのアクティビティを監視のサポートをするため、通常のメッセージ ( 情報 )、警告メッセージ、およびエラーメッセージが生成されます。

各 ZENworks サーバおよび ZENworks Adaptive Agent は、関連付けられているアクティビティのログを作成します。メッセージは ZENworks コントロールセンターのさまざまなエリアに表示されます。

- **システムメッセージログ** : システムメッセージログは、[システム情報] ページ ( [環境設定] タブ ) にあり、ゾーン内のすべての ZENworks サーバおよび Adaptive Agents からのメッセージを表示します。
- **デバイスメッセージログ** : デバイスメッセージログは、サーバまたはワークステーションの [サマリ] ページにあり、ゾーン内の ZENworks サーバまたは Adaptive Agent によって生成されたメッセージを表示します。たとえば、Workstation1 のメッセージログが、Workstation1 上の Adaptive Agent によって生成されたすべてのメッセージを含みます。
- **コンテンツメッセージログ** : コンテンツメッセージログはバンドルまたはポリシーの [サマリ] ページにあり、バンドルまたはポリシーに関連付けられている ZENworks サーバまたは Adaptive Agent メッセージのみを表示します。たとえば、Bundle1 のメッセージログが、異なる 3 つの ZENworks サーバおよび異なる 100 の Adaptive Agents によって生成されたメッセージを含みます。

### 6.1.1 メッセージのサマリの参照

ゾーン内のサーバ、ワークステーション、バンドル、およびポリシーに対して生成されたメッセージ数を示す概要を表示できます。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[ホーム] タブをクリックします。



[メッセージ概要] パネルには、管理ゾーンのすべてのサーバ、ワークステーション、ポリシー、およびバンドルのステータスが表示されます。たとえば、2つのサーバで未承認の重大なメッセージ(当方または他方の管理者がまだ未確認のメッセージ)がある場合、 カラムに数字の2が表示されます。または、警告メッセージ付きの3つのバンドルと通常メッセージの5つのバンドルがある場合、 カラムに数字の3が表示され、 カラムに「5」と表示されます。概要には次のような機能があります。

- root フォルダを表示するオブジェクトタイプをクリックします。たとえば、[サーバ] をクリックして、サーバのルートフォルダを表示します (/サーバ)。
- 任意のオブジェクトタイプで、いずれかのステータスカラム (, , ) の数字をクリックすると、現在そのステータスであるオブジェクトがすべて一覧表示されます。たとえば、通常ステータスのサーバのリストを確認するには、 カラムで数字をクリックします。
- オブジェクトタイプについては、[合計] 列でメッセージ数をクリックして、重大、警告、または通常メッセージのあるオブジェクトすべてを表示します。たとえば、サーバの [合計] メッセージ数をクリックして、何らかのメッセージがあるサーバをすべてリスト表示します。

## 6.1.2 メッセージの承認

メッセージは、承認されるまではメッセージログにあります。メッセージは個別に、またはメッセージログ内のすべてのメッセージを一度に承認することができます。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[デバイス] タブをクリックします。
- 2 ZENworks サーバを見つけるまで [Servers] フォルダをナビゲートします。
- 3 サーバをクリックして詳細を表示します。



#### 4 [サマリ] タブで、[メッセージログ] パネルを見つけます。

[メッセージログ] パネルは、ZENworks サーバによって生成されたすべてのメッセージ (情報、警告、およびエラー) を一覧表示します。次の表は、メッセージを承認および削除するためのさまざまな方法を説明しています。

タスク	手順	追加詳細
メッセージの承認	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. メッセージをクリックして、[メッセージ詳細情報] ダイアログボックスを表示します。</li> <li>2. [承認] をクリックします。</li> </ol>	メッセージを承認しない場合は、[終了] をクリックして、ダイアログボックスを却下します。これによって、メッセージは [メッセージログ] リストにとどまります。
すべてのメッセージを承認する	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 左のナビゲーションペインにある [タスク] リストで、[すべてのメッセージを承認] をクリックします。</li> </ol>	
承認または未承認のメッセージすべてを表示する	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. [詳細] ボタンをクリックして、[メッセージログの編集] ページを表示します。</li> </ol>	<p>承認および未承認のメッセージすべてを表示するのに加え、特定のステータスまたは日付のメッセージのみを表示したり、メッセージの詳細を表示したり、メッセージを承認したりすることもできます。</p> <p>そのページにあるタスクの実行についての固有情報については、[メッセージログの編集] ページで [ヘルプ] ボタンをクリックします。</p>
メッセージの削除	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. メッセージをクリックして、[メッセージ詳細ログ] ダイアログボックスを表示します。</li> <li>2. [削除] をクリックします。</li> </ol>	メッセージを削除すると、ZENworks システムからメッセージが完全に削除されます。




また、zman ユーティリティで messages-acknowledge コマンドを使用して、デバイス、バンドル、およびポリシーに関連付けられたメッセージを承認することもできます。詳細については、『ZENworks 10 Configuration Management コマンドラインユーティリティリファレンス』の「メッセージコマンド」を参照してください。

### 6.1.3 詳細の参照場所

システムメッセージの詳細については、ZENworks 10 Configuration Management システム管理リファレンスの「メッセージログイン」を参照してください。

## 6.2 ウォッチリストの作成

ステータスを詳細に監視したいデバイス、バンドル、またはポリシーウォッチリストは次の情報を提供します。

- ◆ **エージェント**: サーバおよびワークステーションの場合、デバイスの ZENworks Adaptive Agent が現在接続されているか (🟢)、または接続解除されているか (🔴) かどうかが表示されます。
- ◆ : オブジェクトに重大なメッセージがあるかどうかを表示します。
- ◆ **タイプ**: オブジェクトのタイプを表すアイコンを表示します。たとえば、バンドルは  アイコンを備え、Windows バンドルであることを示す場合があります。また、デバイスは  を備え、サーバであることを示す場合があります。アイコンの上にマウスを合わせると説明が表示されます。

- ◆ **名前:** オブジェクトの名前を表示します。名前をクリックしてオブジェクトのメッセージログに移動することができます。

デバイス、バンドル、またはポリシーをウォッチリストに追加するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[ホーム] タブをクリックします。



- 2 [ウォッチリスト] パネルで、[追加] をクリックし、リスト
- 3 選択ダイアログボックスで、目的のオブジェクトを選択し、[OK] をクリックしてウォッチリストに追加します。

たとえば、サーバを追加するには、サーバを参照して選択します。

オブジェクトは削除するまでウォッチリスト内に残ります。

## 6.3 レポートの生成

ZENworks Configuration Management は、ZENworks レポーティングサーバを使用して、管理ゾーンのレポートを生成します。事前定義済みのレポートまたはカスタムレポートを使用できます。

レポートにアクセスするには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[レポート] タブをクリックします。



- 2 [ZENworks レポートینگサーバ] パネルで、[ZENworks レポートینگサーバ InfoView] をクリックして ZENworks レポートینگサーバ InfoView を起動します。ZENworks レポートینگサーバ InfoView ページの初期画面が [ドキュメントリスト] として表示されます。

次の表は、ZENworks レポートینگサーバ InfoView で実行可能な各種のタスクについて説明しています。

タスク	手順
事前定義されたレポートの生成	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. レポートを生成するのに使用するレポートの定義が見つかるまで、事前定義されたレポートフォルダをナビゲートします。</li> <li>2. [アクション] &gt; [スケジュール] の順にクリックするか、レポートを右クリックしてから、[スケジュール] を選択します。</li> </ol>
カスタムレポートの生成	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. [InfoView] ツールバーで、[新規] &gt; [Web インテリジェンスドキュメント] の順にクリックします。[ユニバース] ペインが表示されます。</li> <li>2. [データ] タブで、レポートを作成するユニバースオブジェクトに移動し、オブジェクトを右側のウィンドウにドラッグします。</li> <li>3. [Run Query (クエリの実行)] をクリックします。</li> <li>4. レポートを [カスタムレポート] フォルダに保存します。</li> </ol>
レポートの以前のインスタンスの表示	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 表示したい以前のインスタンスが見つかるまで、事前定義されたレポートフォルダまたはカスタムレポートフォルダをナビゲートします。</li> <li>2. [アクション] &gt; [履歴] の順にクリックするか、レポートを右クリックしてから、[履歴] を選択します。</li> </ol>
レポートの最新のインスタンスの表示	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 表示したい最新のインスタンスが見つかるまで、事前定義されたレポートフォルダまたはカスタムレポートフォルダをナビゲートします。</li> <li>2. [アクション] &gt; [最新のインスタンスの表示] の順にクリックするか、レポートを右クリックしてから、[最新のインスタンスの表示] を選択します。</li> </ol>

タスク	手順
レポートのプロパティの表示	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. プロパティを表示したいレポートが見つかるまで、事前定義されたレポートフォルダまたはカスタムレポートフォルダをナビゲートします。</li> <li>2. [アクション] &gt; [プロパティ] の順にクリックするか、レポートを右クリックしてから、[プロパティ] を選択します。</li> </ol>

zman ユーティリティで、report-generate-now コマンドを使用してレポートを管理することもできます。また、他のレポートコマンドも使用できます。詳細については、『*ZENworks 10 Configuration Management コマンドラインユーティリティリファレンス*』の「レポートコマンド」を参照してください。

レポート機能の詳細については、『*ZENworks 10 Configuration Management システムレポートングリファレンス*』を参照してください。





# マニュアルの更新

# A

このセクションには、この『*管理クイックスタートリファレンス (Novell® ZENworks® 10 Configuration Management SP2 向け)*』で行われたマニュアルの内容の変更に関する情報が含まれています。ドキュメントの最新の更新情報をここで入手できます。

この製品のドキュメントは、HTML および PDF の 2 つの形式で Web にて提供されています。HTML および PDF ドキュメントにはこのセクションに一覧表示された変更が反映され、最新の状態に保たれています。

使用している PDF ドキュメントが最新のものであるかどうかを知る必要がある場合、PDF ドキュメントの表紙の発行日を参照してください。

このドキュメントは次の日付に更新されました。

- ♦ 97 ページのセクション A.1 「2009 年 5 月 27 日 :SP2 (10.2)」

## A.1 2009 年 5 月 27 日 :SP2 (10.2)

次のセクションが更新されました。

ディレクトリ	Update
45 ページのセクション 4.3.2 「ZENworks コントロールセンター展開タスク」	このセクションを更新して、Windows プロキシを使用して Windows プライマリサーバのデバイスを検出する方法に関する情報を記載しました。
50 ページのセクション 4.4.2 「Adaptive Agent ビューのナビゲート」	このセクションを更新して、Adaptive Agent の Windows プロキシやサテライト機能に関する情報を記載しました。
54 ページのセクション 4.4.3 「Adaptive Agent 機能の有効化 / 無効化」	このセクションを追加して、Adaptive Agent 機能をインストール、アンインストール、有効化、または無効化する方法を記載しました。
65 ページのセクション 5.4 「デバイスのイメージング」	GHOST サードパーティイメージングのサポートに関する情報を追加しました。
93 ページのセクション 6.3 「レポートの生成」	BusinessObjects Enterprise レポーティングを ZENworks Reporting Server に変更しました。

